

平成 20 年度研究指定校共同研究事業（小学校・中学校）

# 学びが広がる キャリア教育



平成 21 年 3 月

神奈川県立総合教育センター



## はじめに

現在、若者の勤労観、職業観の未成熟さ、職業人としての基礎的資質・能力の低下等が指摘され、ニートやフリーターの増加が社会問題になっています。そのため、児童・生徒に自己の在り方や生き方について考えさせ必要な力を身に付けさせるキャリア教育の必要性が高まっており、神奈川県では平成 19 年 8 月に策定した「かながわ教育ビジョン」の「重点的な取組み」の中に、「学び高め合う学校教育」として「小・中・高校を通じて系統だったキャリア教育を推進するとともに、企業や地域との連携を一層深め、職場体験やインターンシップ（就業体験）の充実を図るなど、生き方や働くことについて学ぶ教育の総合的な取組みを進めます」と明記しています。

また、平成 20 年 1 月の中央教育審議会による「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」の「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」には、「子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実する必要がある」と記述されており、キャリア教育はますます重要視されています。

そこで、神奈川県立総合教育センターでは、本年度小・中学校各 1 校を研究指定校とし、共同でキャリア教育の実践研究を行いました。

本冊子は、その実践研究をまとめた報告書です。本冊子を小・中学校のキャリア教育の一層の充実と発展に向けて御活用ください。

平成 21 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

所 長 安 藤 正 幸

# 目次

はじめに

目次

本冊子の構成・本冊子の活用の仕方

第1章 今、求められるキャリア教育（理論編）	- - - - -	1
1 キャリアとは	- - - - -	1
2 キャリア発達とは	- - - - -	2
3 キャリア教育とは	- - - - -	3
4 キャリア教育と進路指導との関係	- - - - -	4
5 キャリア教育ではぐくみたい諸能力	- - - - -	5
6 かながわ教育ビジョンにおけるキャリア教育	- - - - -	7
7 新学習指導要領におけるキャリア教育の位置付け	- - - - -	8
8 カリキュラムを見直す	- - - - -	9
9 体験活動の重要性	- - - - -	11
第2章 研究指定校報告（実践編）	- - - - -	13
1 伊勢原市立伊勢原小学校	- - - - -	14
(1)研究の概要	- - - - -	14
(2)研究のテーマと内容	- - - - -	14
(3)研究経過	- - - - -	15
(4)教科でのキャリア教育の実践	- - - - -	18
(5)検証授業の考察	- - - - -	27
(6)伊勢原小学校の研究のまとめ	- - - - -	29

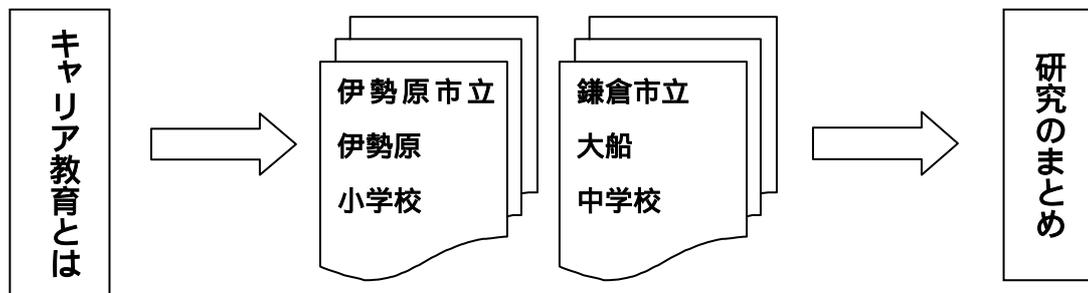
2 鎌倉市立大船中学校	- - - - -	30
(1)研究の概要	- - - - -	30
(2)研究のテーマと内容	- - - - -	30
(3)研究経過	- - - - -	31
(4)道徳でのキャリア教育の実践	- - - - -	36
(5)教科でのキャリア教育の実践	- - - - -	40
(6)検証授業の考察	- - - - -	48
(7)教科でのキャリア教育の実践	- - - - -	53
(8)検証授業の考察	- - - - -	58
(9)大船中学校の研究のまとめ	- - - - -	59
第3章 研究のまとめ	- - - - -	60
1 成果	- - - - -	60
2 課題	- - - - -	62
引用・参考文献	- - - - -	63
作成関係者		

## 本冊子の構成

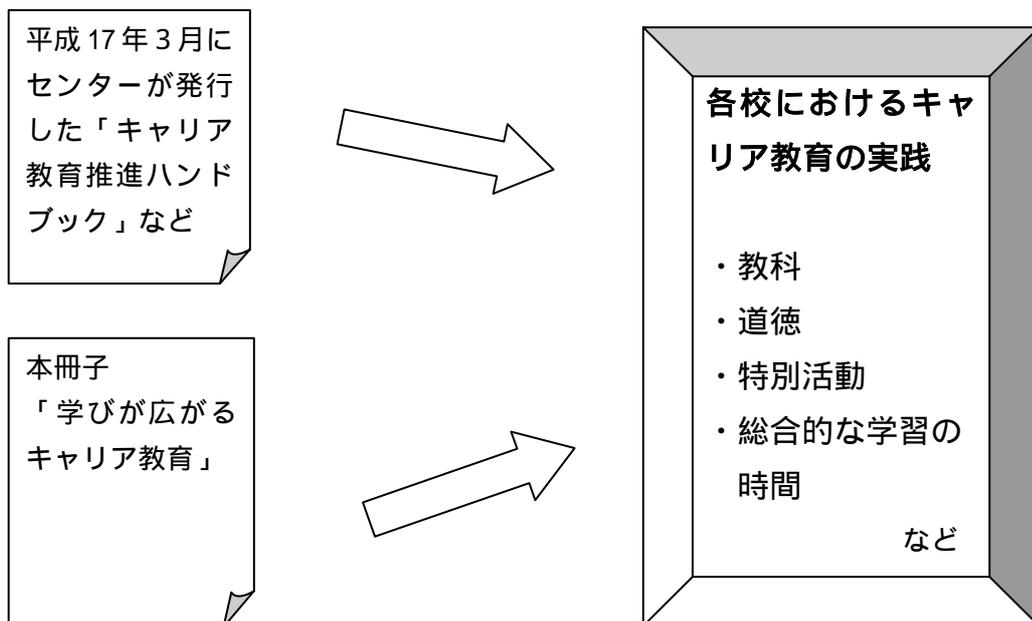
平成 20 年度研究指定校共同研究事業として、神奈川県内の小学校・中学校各 1 校と神奈川県立総合教育センター（以下「センター」という。）が共同で「キャリア教育」について研究し、具体的実践を行いました。

本冊子は、最初に「キャリア教育」の理論を載せ、次に共同研究指定校が実践した内容を紹介しています。

### 共同研究指定校の実践



## 本冊子の活用の仕方



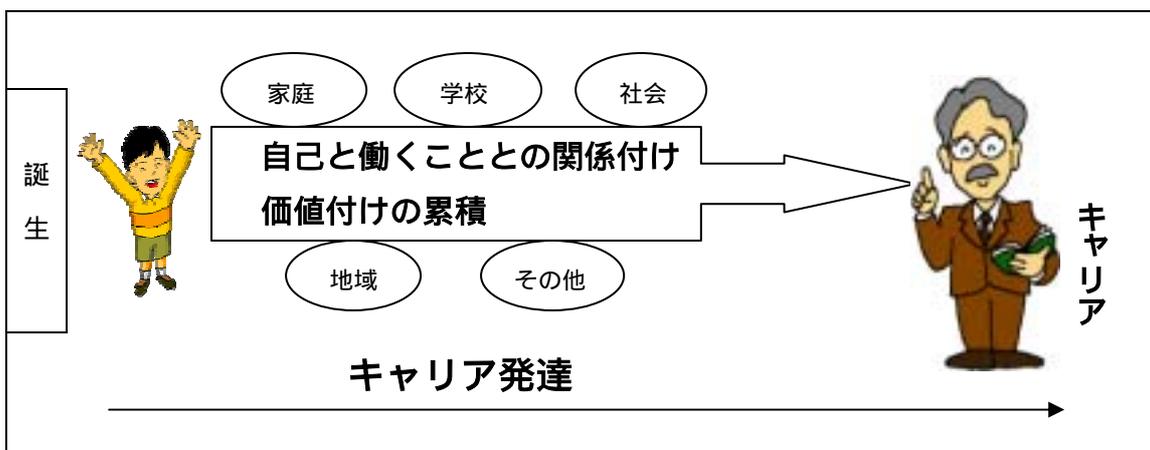
# 第1章 今、求められるキャリア教育（理論編）

## 1 キャリアとは

平成16年1月に文部科学省から発行された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～」(以下、「協力者会議報告書」という。)では、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」(p.7)であるととらえ、生涯の過程において「自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」を行っていくこととしている。

小学校からの各学校教育の段階では、児童・生徒の発達に応じて、「自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」を系統的に行うために、学校ごとに目標を設定し、はぐくみたい能力に応じた指導内容とその実現状況を把握する評価の在り方を検討し、キャリア教育のカリキュラムを通してキャリアを形成していくことが求められている。

このキャリアの内容から、キャリアは個々人の社会生活の経過とともに変化・推移・発達していくものと考えることができ、キャリアの概念自体を人生全般にわたる幅広いものとしてとらえることができる。



第1図 生涯にわたってのキャリア発達とキャリアの充実

(センター「キャリア教育推進ハンドブック」p.10より一部改訂)

## 2 キャリア発達とは

キャリア発達とは、平成 18 年 11 月に文部科学省から発行された「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 - 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために - 」(以下、「キャリア教育推進の手引」という。)に、

発達とは生涯にわたる変化の過程であり、人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。その中で、キャリア発達とは、自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。

(文部科学省「キャリア教育推進の手引」p.3より)

と示されている。

キャリア教育においては、児童・生徒の生涯にわたる発達の観点に立つことが大切であり、児童・生徒の現状だけではなく将来を見据えた「キャリア発達」を意識した指導が必要である。

「キャリア教育推進の手引」に示されている「小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達」は、第1表のとおりである。

第1表 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達

小学校	中学校	高等学校
< キャリア発達段階 >		
<b>進路の探索・選択にかか る基盤形成の時期</b>	<b>現実的探索と暫定的選 択の時期</b>	<b>現実的探索・試行と社 会的移行準備の時期</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己及び他者への積極 的関心の形成・発展</li> <li>・身のまわりの仕事や環 境への関心・意欲の向 上</li> <li>・夢や希望、憧れる自己 イメージの獲得</li> <li>・勤労を重んじ目標に向 かって努力する態度 の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的自己理解と自 己有用感の獲得</li> <li>・興味・関心等に基づ く勤労観、職業観の 形成</li> <li>・進路計画の立案と暫 定的選択</li> <li>・生き方や進路に関す る現実的探索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解の深化と自 己受容</li> <li>・選択基準としての勤 労観、職業観の確立</li> <li>・将来設計の立案と社 会的移行の準備</li> <li>・進路の現実吟味と試 行的参加</li> </ul>

(文部科学省「キャリア教育推進の手引」p.19より)

### 3 キャリア教育とは

キャリア教育の定義について、「協力者会議報告書」では、

**児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育**

(文部科学省「協力者会議報告書」p.7より)

ととらえ、端的には、

**児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育**

(文部科学省「協力者会議報告書」p.7より)

としている。

キャリア教育は、就職の斡旋指導や進学指導等の受験指導のみを目的とするものではなく、児童・生徒の生涯にわたるキャリア形成の能力を身に付けさせるための教育である。その要点は、次の5点である。

**キャリア発達の考え方を基本にすること**

**児童・生徒の年齢や発達段階に応じた職業観を育成すること**

**職業や進路に関する情報収集や分析能力を高めること**

**職業や進路に関する体験や調査・探究などを通じて実際の職業観を育成すること**

**児童・生徒の生涯にわたるキャリア形成の基礎能力を身に付けさせること**

(センター「キャリア教育推進ハンドブック」p.9より一部改訂)

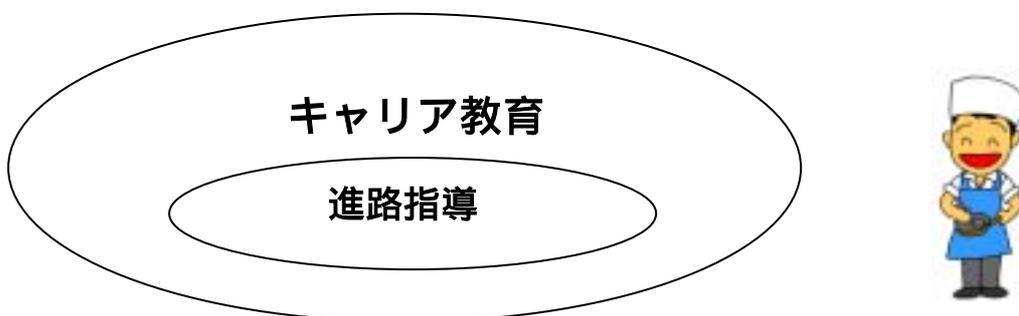
特に、 の「キャリア発達の考え方を基本にすること」は、従来型の進路指導と大きく異なる点である。

キャリア教育は、いわば、生き生きとした人生を自分自身の力でデザインし切り拓く能力を育成することである。それは、自分自身の力で人生の価値を高めることであると言い換えることができる。



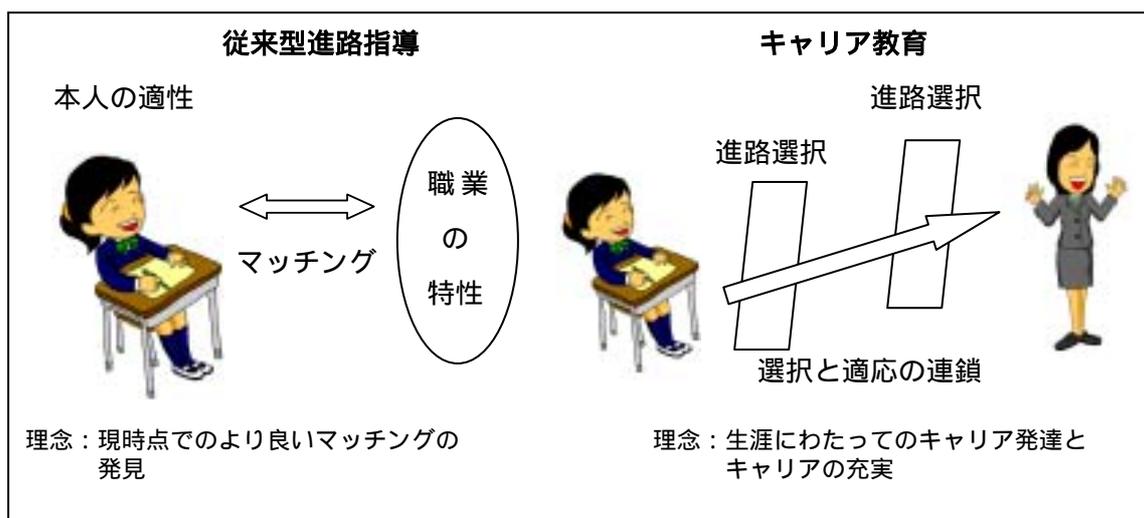
## 4 キャリア教育と進路指導との関係

児童・生徒に自己の生き方を考えさせ、進路を選択・決定させるという、これまで行ってきた進路指導は教育活動として重要であり、「協力者会議報告書」でも「進路指導の取組は、キャリア教育の中核をなすものである」(p.14)としている。さらに、現在の社会や若者の状況から、児童・生徒に生涯にわたる在り方・生き方について考えさせ、その意欲・態度や能力を育てるという、進路指導よりも広い領域をもつキャリア教育が重要になっている。



第2図 キャリア教育と進路指導との関係

従来型の進路指導は、本人の適性と職業の特性の合致点を見付けることに力を注ぐもので、マッチング理論と言われる考え方であった。それに対して、キャリア教育の理念は、発達の観点に立った進路指導であり、選択と適応の連鎖の中で生涯にわたってのキャリア発達とキャリアの充実を目指すものである。



第3図 進路指導におけるマッチング理論とキャリア教育の違い

(センター「キャリア教育推進ハンドブック」p.9より一部改訂)

## 5 キャリア教育ではぐくみたい諸能力

キャリア教育ではぐくみたい能力については、平成8年度・9年度の2カ年にわたり、旧文部省委託研究として職業教育・進路指導研究会がまとめた「職業教育及び進路指導に関する基礎的研究（最終報告）」（平成10年）の中で、「キャリア設計」・「キャリア情報探索・活用」・「意志決定」・「人間関係」の4能力領域が設定された。これらは同報告書の中で、「わが国におけるキャリア発達能力の構造化モデル」（p.95）として示された。その後、最終報告における構造化モデルの成果をいかして、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが平成14年11月に発行した「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」（以下、「調査研究報告書」という。）の中の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」（pp.47-48）において4領域8能力が示された（第2表参照）。

平成17年3月にセンターが発行した「キャリア教育推進ハンドブック」では、この4領域8能力を参考に、学校教育でのキャリア発達にかかわる諸能力について研究した結果、人間関係形成能力を二つに分け、5能力領域及びその下位10能力（5領域10能力）を示した（第3表参照）。これらはあくまでも例であり、キャリア教育を通して児童・生徒が身に付ける諸能力は、学校や地域、児童・生徒の状況を十分踏まえ、各学校が適切に設定するものである。

第2表 4領域8能力

領域	能力
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力
意思決定能力	選択能力 課題解決能力

（国立教育政策研究所「調査研究報告書」より）



第3表 キャリア発達にかかわる諸能力

5領域	領域説明	10能力	能力説明
1 自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく	自己理解能力	自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力
		自己表現能力	適切な自己表現を通して自己実現を図る能力
2 人間関係能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	他者理解能力	他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		コミュニケーション能力	多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
3 情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択にいかす	情報収集・活用能力	進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		職業理解能力	様々な体験等への取組を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力
4 将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	役割把握・認識能力	生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		計画実行能力	目標とすべき自己の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で実行していく能力
5 意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	選択・決定能力	様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定をし、その結果を責任を持って受け入れ、適応・対処できる能力
		課題解決能力	希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力

(センター「キャリア教育推進ハンドブック」p.13より)

## 6 かながわ教育ビジョンにおけるキャリア教育

平成 19 年 8 月に神奈川県教育委員会は、明日のかながわを担う人づくりを進めるため、教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」を策定した。その中で、おおむね 6 歳ごろから 18～22 歳ごろまでを「自分らしさを探求する段階（児童・青年期）」としており、その段階の目標を「それぞれの学校段階において、確かな学力を身に付けるとともに、様々な体験や経験を通じて生き方や進路を考え、自分らしさを探求し、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性を培う」（p.28）としている。

第 5 章の「重点的な取組み」には、

### ・学び高め合う学校教育

#### 生き方や社会を学ぶ教育の充実

小・中・高校を通じて系統だったキャリア教育を推進するとともに、企業や地域との連携を一層深め、職場体験やインターンシップ（就業体験）の充実を図るなど、生き方や働くことについて学ぶ教育の総合的な取組みを進めます。また、よき市民となるため、政治参加意識を高め、社会や経済のしくみについて理解を深めるとともに、ボランティア活動などを通じて、積極的に社会とかわり責任を果たそうとする力を育成します。

（神奈川県教育委員会「かながわ教育ビジョン」p.53 より）

と明記され、キャリア教育の推進が重点的な取組の一つに上がっており、県立高校においては、平成 20 年度から学校ごとの指導計画に基づき、キャリア教育が展開されている。

「かながわ教育ビジョン」の中には、発達段階に応じた具体的な取組の方向性が示されているので、第 4 表にその内容を紹介します。なお、この表にある児童期とはおおむね 6 歳ごろから 12 歳ごろまでで、青年期とはおおむね 12 歳ごろから 18～22 歳ごろを指している。

第 4 表 「かながわ教育ビジョン」に示されている具体的な取組

児童期	青年期
生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。	地域での貢献活動やボランティア活動、職場体験などの体験活動を通して、生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。

（神奈川県教育委員会「かながわ教育ビジョン」p.30,34 より）

## 7 新学習指導要領におけるキャリア教育の位置付け

平成 20 年 1 月、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（以下、「答申」という。）が出され、学習指導要領改訂の方針が示された。この「答申」の「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」に、キャリア教育について次のとおり明記されている。

「生きる力」という考え方は、社会において子どもたちに必要となる力をまず明確にし、そこから教育の在り方を改善するという視点を重視している。近年の産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。このような変化の中で、将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実する必要がある。

（中略）

生活や社会、職業や仕事との関連を重視して、特別活動や総合的な学習の時間をはじめとした各教科等の特性に応じた学習が行われる必要がある。特に、学ぶことや働くこと、生きることを実感させ将来について考えさせる体験活動は重要であり、それが子どもたちが自らの将来について夢やあこがれをもつことにつながる。具体的には、例えば、

- ・特別活動における望ましい勤労観・職業観の育成の重視、
- ・総合的な学習の時間、社会科、特別活動における、小学校での職場見学、中学校での職場体験活動、高等学校での就業体験活動等を通じた体系的な指導の推進、

などを図る必要がある。

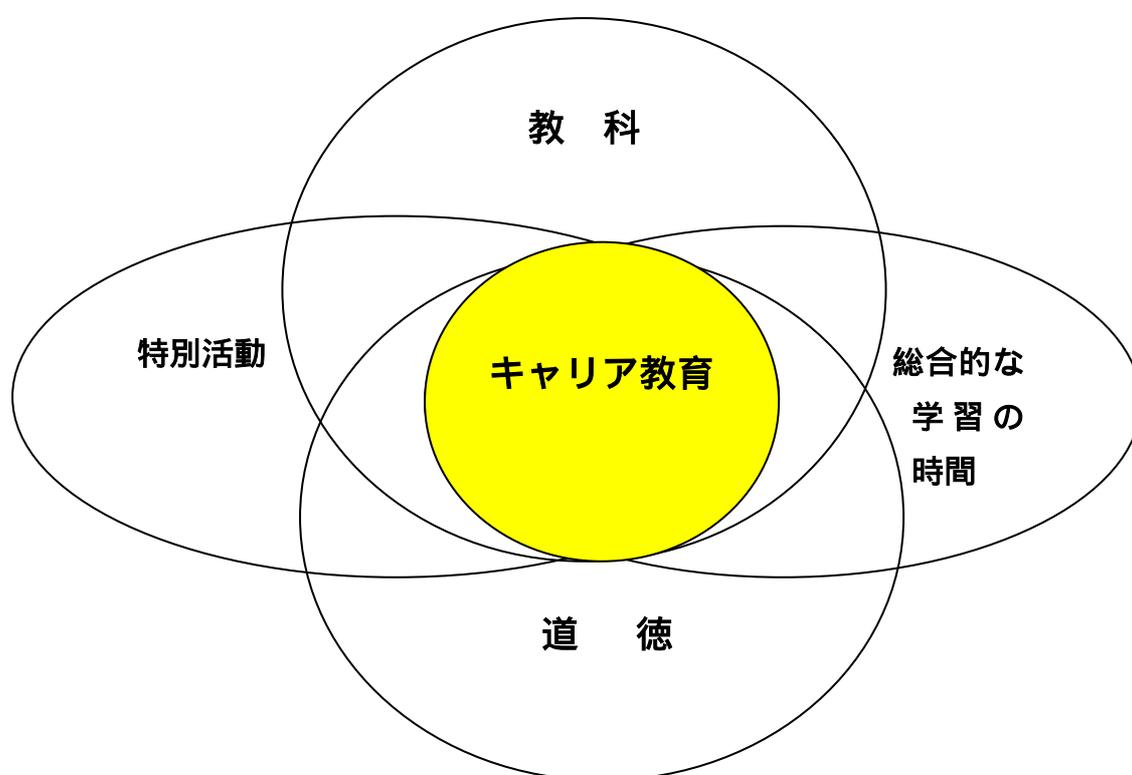
（中央教育審議会「答申」pp.68-69 より）

上記の「答申」の内容を受けて小・中学校の学習指導要領が改訂され、平成 20 年 3 月 28 日に告示された。これにより、小学校では平成 23 年度から、中学校では平成 24 年度から全面実施が予定されているが、新学習指導要領の総則や道徳、総合的な学習の時間、特別活動については、平成 21 年度から新学習指導要領の規定を先行実施することになった。

新学習指導要領には、キャリア教育という用語そのものは使われていないが、上記「答申」を受けて改訂されており、キャリア教育の充実が求められているのである。

## 8 カリキュラムを見直す

前ページに掲載した「答申」の中にあるように、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」にキャリア教育の充実が盛り込まれ、キャリア教育を推進するのは特別活動や総合的な学習の時間だけではなく、教科等と関連した取組が求められている。そのため、特別活動や総合的な学習の時間に加え、教科等を含んだ学習になるようにカリキュラムを見直す必要がある。



第4図 学校全体の教育活動を通じたキャリア教育

そこで、どのようにしてカリキュラムの見直しを行うかという課題に向き合う必要がある。センターでは、平成15年度研究事業「キャリア教育カリキュラムの開発に関する研究」に基づき、先進校の取組に関して事例研究を行い、その成果を踏まえて検討・考察を重ねてきた結果、次のような開発プロセスを提示している。

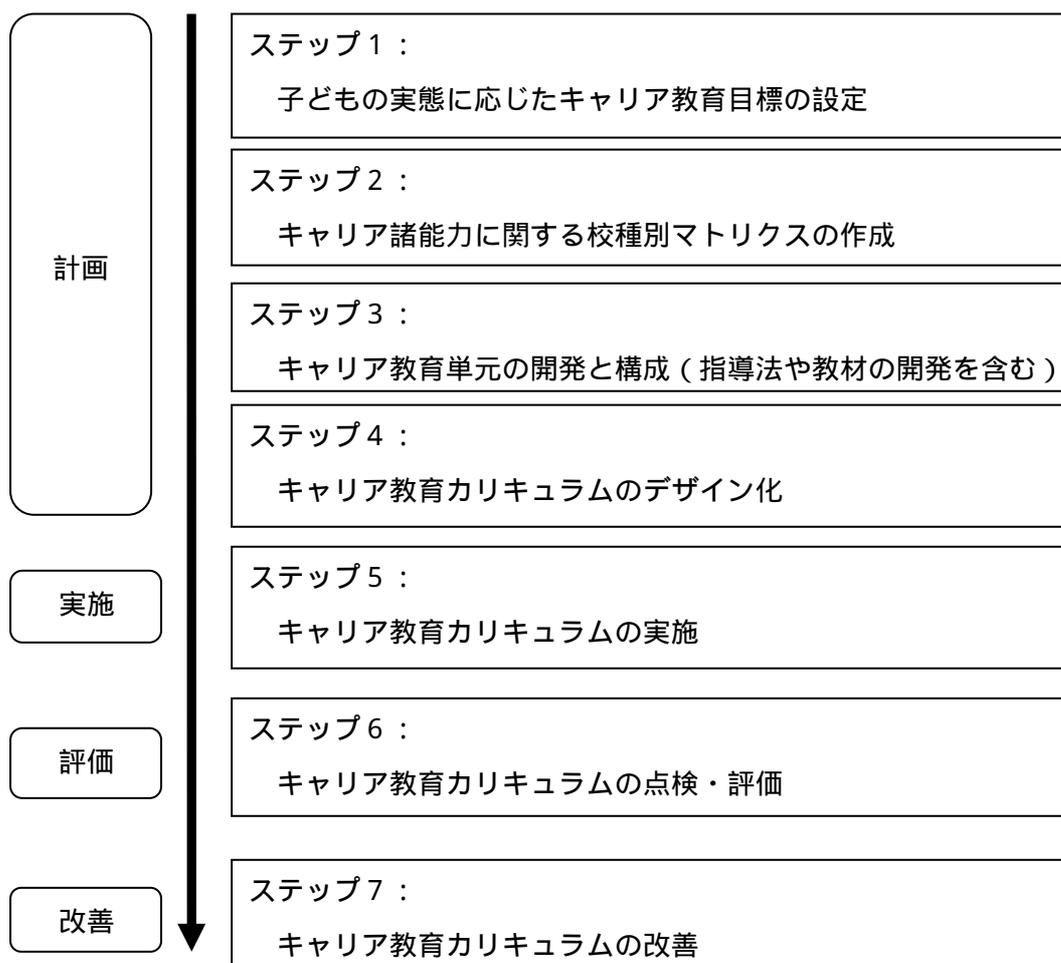


図5．キャリア教育の開発プログラム

（センター「キャリア教育推進ハンドブック」p.22 より一部改訂）

カリキュラム開発に際しては、児童・生徒の実態に応じた教育目標の設定が重要であり、そこからスタートしないと「活動あって学びなし」という状況に陥る危険性がある。

キャリア教育は、家庭や地域の願いを踏まえ、地域を単位に「どのような子どもをはぐくんでいくのか」という目標を共有化した上で、学校教育におけるキャリア教育の役割や目標を見出し出していくことが大切である。視点を変えて言えば、キャリア教育を推進することにより、キャリア教育を媒介にして地域に開かれた学校作りを促進する可能性をも秘めているといえる。



## 9 体験活動の重要性

キャリア教育では体験活動が重要であり、「体験活動等の意義」について、「協力者会議報告書」では次のように述べている。

体験活動等には、職業や仕事の世界についての具体的・現実的理解の促進、勤労観、職業観の形成、自己の可能性や適性の理解、自己有用感等の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な教育効果が期待され、事実、実施したほとんどの学校から、こうした面での大きな成果が報告されている。

職業と生活の分離が進み、子どもたちが生き生きと働いている大人の姿を見ることが少なくなった今日、子どもたちは、仕事は我慢してやらなければならないもの、苦勞するものといった意識だけを持ちがちであるが、職場体験やインターンシップ等を通して、やりがいを持って仕事をしている人たちから直接話を聞いたり、世の中にはこんな仕事がある、仕事にはこんなやりがいや面白いことがあると教えられたりすることは、子どもたちに新鮮な驚きと発見をもたらす、職業については大人社会への認識を改めるきっかけになっている場合も少なくない。体験を通して得られるこのような自己への期待感や大人との信頼関係は、子どもたちが抱えている不安を解消し、次の段階に踏み出していくエネルギーの源となるものでもある。

体験活動等には、このほか、学校と社会をつなぐという重要な役割がある。一面的な情報に流され、社会の現実を見失いがちな現代の子どもたちに、現実に立脚した確かな認識をばくむ上でも、体験活動等の充実は欠かすことのできないものである。

(文部科学省「協力者会議報告書」p.25より)

また、前述した「かながわ教育ビジョン」や「答申」、「新学習指導要領」においても体験活動の大切さが、指摘されている。

平成20年3月、国立教育政策研究所生徒指導研究センターから発行された「キャリア教育 体験活動事例集(第1分冊) - 家庭や地域との連携・協力 - 」の10ページに、体験活動実施のポイントが7点明記されている。



## 体験活動実施のポイント

- (1) ねらいの設定
- (2) 全体計画・実施計画の立案
- (3) 体験先、保護者との連携
- (4) 事前指導の充実
- (5) 実施期間中の指導体制
- (6) 事後指導の充実
- (7) 評価



体験活動が単独の孤立した活動とならないように、事前指導では児童・生徒に体験活動の意義を理解させるとともに職業調べ等を行い、事後指導ではまとめの話し合いや発表会等を計画するなど、周到な準備の基に体験活動を実施することが大変重要である。

### 《次章の内容について》

これまで紹介したキャリア教育の考えを基に、伊勢原市立伊勢原小学校と鎌倉市立大船中学校が実践研究を行った。それぞれの学校の研究チームとセンター所員が共同で研究を進めた結果、センターだけではできない具体的実践を伊勢原小学校と大船中学校で行うことができた。

次章が、両校のキャリア教育の実践報告である。



## 第2章 研究指定校報告（実践編）

### 1 伊勢原市立

#### 伊勢原小学校

### 2 鎌倉市立

#### 大船中学校



伊勢原小学校の児童と拡大読書機



大船中学校の生徒の職場体験活動の様子

# 1 伊勢原市立伊勢原小学校

## (1) 研究の概要

伊勢原市立伊勢原小学校は、平成 20 年度の学校教育目標を、“友だちと育ち夢を育む伊勢原っ子”として、「よく考え、努力する子(知)」「なかよく、助け合う子(徳)」「健康で、たくましい子(体)」を育てる学校運営を行っている。

平成 20 年度の「伊勢原小教育プラン」には、学校教育目標の実現のために、「確かな学力を育む教育」「豊かな心を育む教育」「健やかな体をつくる教育」「地域と歩む教育」を進めることが明記されている。「確かな学力を育む教育」のための一つに学校研究の推進が挙げられており、伊勢原市教育委員会学校研究委託校(平成 20～23 年度)にもなっている。

キャリア教育については、これまで特に研究として取り上げてはいない。しかし、平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申にもあるように、教育課題として「キャリア教育」に取り組むことが必要であるととらえている。

そこで、平成 20 年度は、「キャリア教育」に関する研究体制を整えた。具体的には、校内研究とは別組織で、「キャリア教育」の研究チームを立ち上げ、研究主任 1 名、副主任 2 名によって研究を進めることとした。まず、このプロジェクトチームで実践研究を行い、成果を学校全体に発信していくことを目指した。

センターは、この「キャリア教育」の研究チームと共同研究を行った。教科にキャリア教育の視点を取り入れた実践研究と、千葉商科大学教授の鹿嶋研之助氏を講師に招いてキャリア教育の理論を学ぶ講演会を中心に取り組んだ。

## (2) 研究のテーマと内容

**研究テーマ：「教科でのキャリア教育の推進」～第 4 学年国語科を通して～**

**研究の内容：教科指導にキャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れることにより、教科の中でキャリア教育を進めるとともに、教科の授業改善を図る。具体的には、第 4 学年国語科の「伝え合うということ」の単元で授業研究を行う。**

### (3) 研究経過

#### (ア) 研究仮説の設定

キャリア教育の実践研究は、小学校でも全国的に進められてきている。総合的な学習の時間や特別活動などでの実践は見られるが、教科中での実践となると、キャリア教育ではぐくむ諸能力の一部の領域を取り上げた取組（国語科では「人間関係形成能力」、社会科では「情報活用能力」など）が目立つ。

本研究は、「各教科においてキャリア教育ではぐくむ諸能力をそのように簡単に分けて実践することができるのだろうか」という疑問から出発した。つまり、国語科でも社会科でもキャリア教育ではぐくむ諸能力の4領域（国立教育政策研究所の分類、本冊子5ページ参照）にかかわる内容を扱えるのではないかと、ということである。

もう一つは、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を教科指導に織り込むことにより、その教科の授業改善が図られるであろうということである。そこで、

**教科の中にキャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れることで、キャリア教育の充実を図るとともに、教科のねらいを達成させるための授業改善にもつながるであろう**

という仮説を立て、具体的には国語科で実践的研究を行うこととした。

#### (イ) 実践を通しての仮説の検証

まず、伊勢原小学校第4学年国語科の年間指導計画の中で、キャリア教育ではぐくむ諸能力と関連が多く見られる単元を取り出し、そこでの学習内容とキャリア教育ではぐくむ諸能力との関係を一覧表で示した（次ページの表）。この表は、縦に見ると、その単元におけるキャリア教育ではぐくむ諸能力の視点からとらえた「期待する児童の姿」を読み取ることができ、また、横に見ると児童のキャリア発達を追うことができるというものである。

キャリア教育ではぐくむ諸能力については、センターが発行した「キャリア教育ハンドブック」では人間関係形成能力を自己教育能力と人間関係形成能力の二つに分け、5領域10能力としている。研究チームは、これを基に学校教育目標や児童の実態、地域の特色などから検討を行った。伊勢原小学校では「友だちと育ち 夢を育む伊勢原っ子」を学校教育目標としていることから、様々な人々とコミュニケーションを図り協力・共同してものごとに取り組むという人間関係形成能力に主眼を置き、自己教育能力についてはその中に含めて考える方が学校の実態に合っているととらえた。そこで、ここでは4領域8能力（本冊子5ページ参照）によることとした。

本研究では「伝え合うということ」の単元を取り上げ、検証授業を第4学年4組（33名）で行った。

## キャリア教育ではぐくむ諸能力と第4学年国語科単元との関連表

			小 学 校
<b>職業的(進路)発達段階</b>			<b>進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期</b>
<b>職業的(進路)発達課題(小～高等学校段階)</b> 各発達段階において達成しておくべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面から捉えたもの。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己及び他者への積極的関心の形成・発展</li> <li>・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上</li> <li>・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得</li> <li>・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成</li> </ul>
<b>職業的(進路)発達にかかわる諸能力</b>			<b>職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度[中学年]</b>
領域	領域説明	能力説明	
<b>人間関係形成能力</b>		<b>【自他の理解能力】</b> 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよいところを見つける。</li> <li>・友達の良いところを認め、励まし合う。</li> <li>・自分の生活を支えている人に感謝する。</li> </ul>
		<b>【コミュニケーション能力】</b> 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。</li> <li>・友達の気持ちや考えを理解しようとする。</li> <li>・友達と協力して、学習や活動に取り組む。</li> </ul>
<b>情報活用能力</b>	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	<b>【情報収集・探索能力】</b> 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな職業や生き方が分かる。</li> <li>・分らないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。</li> </ul>
		<b>【職業理解能力】</b> 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係や当番活動に積極的にかかわる。</li> <li>・働くことの楽しさが分かる。</li> </ul>
<b>将来設計能力</b>	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	<b>【役割把握・認識能力】</b> 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。</li> <li>・日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。</li> </ul>
		<b>【計画実行能力】</b> 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢や希望を持つ。</li> <li>・計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。</li> <li>・学習等の計画を立てる。</li> </ul>
<b>意思決定能力</b>	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	<b>【選択能力】</b> 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。</li> <li>・してはいけないことが分かり、自制する。</li> </ul>
		<b>【課題解決能力】</b> 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。</li> <li>・自分の力で課題を解決しようとする。</li> </ul>

紙面の都合上、1年間に学習する単元の一部を掲載

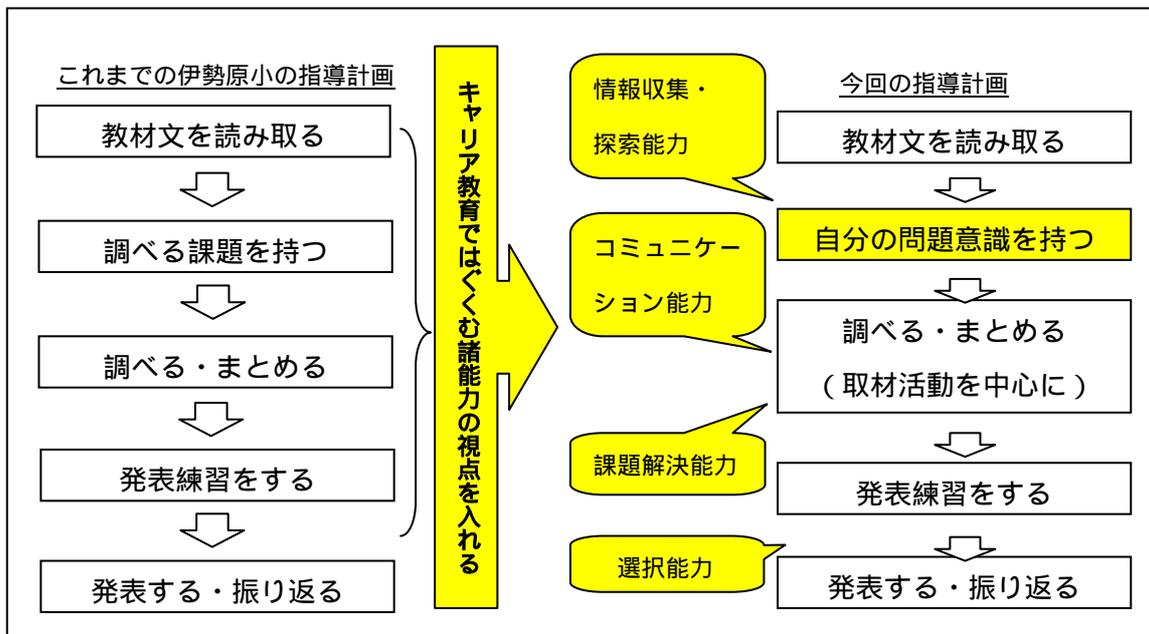
第4学年国語科			
伝えたいことをはっきりさせて書く	本と友達になろう	調べて発表しよう	材料の選び方を考えよう
<p>「新聞記者になろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話題を選んで取材し、必要な事柄を集める。</li> <li>下書きを見直して、間違いを直したり付け加えたりする。</li> </ul>	<p>「白いぼうし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面や情景を想像させる言葉を手掛かりに読む。</li> <li>作品のおもしろさを味わい、友達と自分の感じ方の違いに気付き、読みを深める。</li> </ul> <p>「本は友達」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本の探し方を理解し、いろいろな読み物を読む。</li> </ul>	<p>「伝え合うということ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達に自分の考えが伝わるように筋道を立てて話す。</li> <li>話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめる。</li> <li>状況に応じて適切な音量や速さで話す。</li> </ul>	<p>「アップとルーズで伝える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>段落の役割を考えながら読む。</li> <li>アップとルーズの特徴をまとめる。</li> </ul> <p>「4年3組から発信します」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取材した事柄を相手に応じて分かりやすく書いて伝える。</li> <li>必要な事柄を集める。</li> </ul>
キャリア教育ではぐむ諸能力			
自分では気付かなかったことに着目した友達のよさを認める。	叙述(根拠)に基づいて登場人物の気持ちや人柄を想像して読む。	視覚障害の方の点字に寄せる思いを理解しようとする。	伝える相手についてよく知り、相手の立場に立って考える。
友達と協力して新聞を作ったり、できあがった新聞をお互いに読み合って相互評価したりする。	自分の考えを伝え、友達の感じ方の違いを知る。	取材活動などを通して、いろいろな人とコミュニケーションをとる。友達の発表を聞き、感想を交流する。	伝え方には相手や内容によって工夫があることを知る。
取材したいことを決める。情報を収集し、取捨選択する。	図書館の本の探し方を理解する。	様々な手段を使って自分たちのテーマに合った情報を収集する。	図書資料を選んだり直接取材したりして材料を集める。
新聞記者の仕事について知る。	タクシードライバーの松井さんの人柄について自分なりの考えを持ち、友達と感想交流する。	視覚障害の方や共に支え合っている人たちがいることを知る。	「伝える」ことを職業としている人や「伝える」ことの重要性を理解する。
取材の分担を決める。	松井さんの生き方と照らし合わせて、「なりたい」自分の将来像を考える。	視覚障害の方などの生活や思いについて考え、自分たちができることなどについて考えを述べ合う。	「伝える」という役割の重要性とともに、「伝える」人はその内容についての責任を持つことを理解する。
グループでどんな新聞を作るか話し合い、計画的に取り組む。	「おすすめの本」カード集をつくるための手順が分かり計画的に取り組む。	自分たちが調べたいテーマについて、調査、まとめ、発表の手順を明確にして、計画的に取り組む。	目的と相手に応じて、必要なことを友達と計画的に調べて集めたり選んだりしている。
新聞がよりよいものになるように記事を選択したり書き方を工夫したりする。	物語のおもしろかった部分を選び、その理由を発表する。	集めた情報を取捨選択したり、発表方法を工夫したりして聞き手の側を意識して発表する。	目的や相手に合わせ、集めた材料を整理して伝える。
自分の分担に責任を持って、課題を解決しながら新聞づくりを行う。	「おすすめの本」カード集をよりよいものにするために、友達と話し合い、下書きを直したりレイアウトや見出しを工夫したりする。	調査から発表まで、グループでよく相談し、よりよいものを作ろうという気持ちを持って、課題を解決しながら取り組む。	グループで協力して課題を解決しながら取り組むとともに、作業を振り返りよかったことや問題点を出し合う。

\*「職業的(進路)発達の段階」と「進路の探索・選択にかかわる基盤形成の時期」の欄は、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」(平成14年11月国立教育政策研究所)47・48ページより引用

### (ウ) 仮説を基にした単元計画

本単元「伝え合うということ」は、国語の内容としては、教材文を読むことをきっかけに、課題を持って調べ学習を行い、自分の考えが分かるように筋道を立てて話したり、友達の発表を話の中心に気を付けて聞いて感想を述べたりすることである。しかし、単に与えられた課題に取り組むのではなく、児童に意欲を持って活動させたいと考えた。

そこで、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れ、自分と対象とのかわりを重視させるようにした。「情報収集・探索能力」や「コミュニケーション能力」に着目し、児童が「このことはぜひみんなに伝えたい」という気持ちにさせるような調べ学習にすることで、単元を通して児童に自分の問題という意識を持たせることができると考えた。したがって、従来の指導計画を下図のように修正して指導計画を立てた。



## (4) 教科でのキャリア教育の実践

### 実践した単元名とキャリア教育ではぐくむ諸能力など

(ア) 単元名 第4学年 国語 調べて発表しよう「伝え合うということ」

#### (イ) 単元目標

取材活動などを通して得た情報を、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すことができるようにする。

話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめることができるようにする。

### (ウ) 単元について

一部の児童には自分の意見をみんなの前で発表するのが苦手だと思っ  
てしまい、消極的な姿勢がしばしば見受けられる。そのため、クラスの児童は普段から  
挙手が少ない傾向にある。

これまで自分の考えを述べたり意見交換をしたりといった活動は、1学期に主  
に電話での会話を例にとり、聞き取りメモの取り方を学習したり、簡単な伝  
言ゲームを行ったりした。また、ディベートも数回行っている。その他の活動  
では、音読発表会の後に感想交流を行ったことがあるが、そのときの交流方法  
はカード交換だった。これまで、大勢の前での発表や感想交流をするなどの機  
会は、それほど多いわけではない。そうした実態を踏まえると、自分から主体  
的に調べ学習を行い、みんなの前で堂々と発表する経験をさせて自信を付けさ  
せたいと考えた。

本教材で、児童は点字という「文字」に出会う。資料「手と心で読む」を読  
んだ後、児童に目を閉じさせ、教科書にある点字ページを指でたどらせてみた  
い。ほとんどの児童が、とても認識できるものではないと感じるだろう。この  
感覚が点字なしには本を読むことのできない人の存在を思いやることに通じる  
のではないかと期待する。このことをきっかけに生まれた児童の興味・関心を  
基に、主体的に調べ活動に入り、内容をまとめ、発表し、感想の交流を行って  
いく。調べ活動の対象は、視覚障害のある方が利用するもの以外にも目を向け  
させたい。

ここでは、調べる活動が中心になってくるが、本やインターネットで情報収  
集をして終わり、ということは避けたい。実物を体験したり、発見したりとい  
った実際の取材を大切にしたい。その体験や発見を他グループには発表するま  
で話さないことを約束とし、課題追究や発表への意欲を高められるように配慮  
した。

発表する活動では、感想を交流することで伝え合う力を育てていきたい。

### (エ) 本単元の評価規準とキャリア教育ではぐくむ諸能力

単元目標に迫るための評価規準と、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点か  
ら本単元において期待する児童の姿を以下のように示した。

#### 【評価規準】

関心・意欲・態度	自分が興味を持った事柄について、進んで調べようとしている。 友達の発表を聞き、進んで感想を交流しようとしている。
話す・聞く	友達に自分の考えが分かるようにまとめ、筋道を立てて話す。 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめる。
読む	自分なりの課題を持つために、教材文を読む。
言語	状況に応じて適切な声の大きさや速さで話す。 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話す。

## 【キャリア教育ではぐくむ諸能力】

前掲した通り、伊勢原小学校ではキャリア教育ではぐくむ諸能力として4領域8能力を設定した。本単元では、4領域8能力の全ての諸能力を網羅できたが、その中でも特に重視する視点を下に示す。

### 【人間関係形成能力】

取材活動などを通して、いろいろな人とコミュニケーションをとる。(コミュニケーション能力)

友達の発表を聞き、感想を交流する。(コミュニケーション能力)

### 【情報活用能力】

様々な手段を使って自分たちのテーマに合った情報を収集する。(情報収集・探索能力)

### 【意思決定能力】

集めた情報を取捨選択したり、発表方法を工夫したりして聞き手を意識して発表する。(選択能力)

調査から発表まで、グループでよく相談し、よりよいものを作ろうという気持ちを持って、課題を解決しながら取り組む。(課題解決能力)

## 単元の指導・評価計画（全16時間）

	学習活動	留意点 評価規準（観点）	キャリア教育ではぐくむ諸能力
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	<p>教材文「手と心で読む」の内容を読み取り、アイマスク体験と点字体験をする。</p> <p>街の施設を実際に見に行く。</p> <p>読み取ったことや思ったこと、点字体験や街の施設見学等から、もっと調べてみたいと思ったことをまとめる。</p>	<p>学習のめあてを明確にする。</p> <p>自分なりの課題を持つために、「手と心で読む」を読む。(読)</p> <p>課題意識を持たせる。</p> <p>身近な点字などの表記を資料として提示する。</p> <p>自分が興味を持った事柄について、進んで調べようとしている。(関・意・態)</p>	<p>視覚障害のある方の点字に寄せる思いを理解しようとする。(自他の理解能力)</p> <p>視覚障害のある方や共に支え合っている人たちがいることを知る。(職業理解能力)</p>

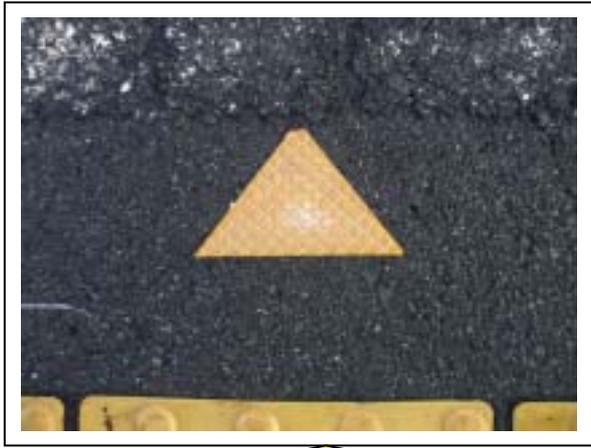
5 ・ 6 ・ 7	<p>自分の課題を決め、課題ごとのグループを作る。</p> <p>「取材秘密カード」を使って情報を収集する。</p> <p>グループで課題について調べる。</p>	<p>校外に調べ学習に出かける時は安全に注意する。</p> <p>グループで発見したことを他のグループには秘密にして、発表時に公開することで、調べる意欲につなげる。</p> <p>本やインターネットで情報を収集してもよいことを伝える。</p> <p>自分が興味を持った事柄について、進んで調べようとしている。(関・意・態)</p> <p>相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話す。(言)</p>	<p>様々な手段を使って自分たちのテーマに合った情報を収集する。(情報収集・探索能力)</p> <p>取材活動などを通して、いろいろな人とコミュニケーションをとる。(コミュニケーション能力)</p> <p>調査から発表まで、グループでよく相談し、よりよいものを作ろうという気持ちを持って、課題を解決しながら取り組む。(課題解決能力)</p>
8 ・ 9 ・ 10	<p>グループごとに調べたことをまとめる。</p> <p>発表方法を考え、必要な原稿や資料などを準備する。</p>	<p>一番知らせたいことを絞らせ、発表のポイントを明確にする。</p> <p>話し始めと結びを考え、発表全体を組み立てる。</p> <p>友達に自分の考えが分かるようにまとめる。(話・聞)</p>	<p>自分たちが調べたいテーマについて、調査、まとめ、発表の手順を明確にして、計画的に取り組む。(計画実行能力)</p>
11 ・ 12 ・ 13	<p>グループごとに発表練習をする(アドバースカードを利用する)。</p>	<p>グループ内で練習し、原稿を読むときには、ゆっくり話す、間をとる、聞き手の方を向くことを心掛けるようにする。</p> <p>友達に自分の考えが分かるように筋道を立てて話す。(話・聞)</p>	<p>集めた情報を取捨選択したり、発表方法を工夫したりして聞き手を意識して発表する。(選択能力)</p> <p>友達の発表を聞き、感想を交流する。(コミュニケーション能力)</p>

14 ・ 15	<p>調べたことを発表する。</p> <p><u>(次ページに展開例)</u></p> <p>他のグループの発表を聞き、「聞き取りメモ」と感想を書く。各グループの発表後に感想を伝える。</p>	<p>発表の約束を確認させる。</p> <p>状況に応じて適切な声の大きさや速さで話す。(言)</p> <p>話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめる。(話・聞)</p> <p>友達の発表を聞き、進んで感想を交流しようとしている。(関・意・態)</p>	<p>集めた情報を取捨選択したり、発表方法を工夫したりして聞き手を意識して発表する。(選択能力)</p> <p>友達の発表を聞き、感想を交流する。(コミュニケーション能力)</p> <p>視覚障害のある方などの生活や思いについて考え、自分たちができることなどについて考えを述べ合う。(役割把握・認識能力)</p>
16	<p>感想を交流し合い、「伝え合うということ」について自分の考えをまとめる。</p>	<p>テーマに立ち返り、「伝え合う」とはどういうことが自分なりの考えを持つようになるようにする。</p> <p>「伝え合うということ」について自分の感想をまとめる。(話・聞)</p>	<p>取材活動などを通して、いろいろな人とコミュニケーションがとれる。(コミュニケーション能力)</p> <p>友達の発表を聞き、感想を交流する。(コミュニケーション能力)</p>

**施設見学から (地域が学びの場)**



**郵便ポストの点字表示  
(伊勢原市内で児童が撮影)**



**電車のドアが開く位置の表示  
(伊勢原駅のホームで児童が撮影)**

## 展開例（単元の14時間目）

### 本時の目標

- ・調べたことや発見したことを聞き手に分かりやすく、はっきりした言葉遣いで発表することができる。
- ・話の中心に気を付け、発表を注意深く聞き取り、「聞き取りメモ」に「分かったこと」や「良かったところ」などの感想を書くことができる。

### 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準（観点）〔評価方法〕 キャリア教育ではぐくむ諸能力
<p>1. 発表のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>調べたことや発見したことを分かりやすく発表しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表のめあてだけでなく、聞く側のめあても確認する。</li> </ul>	
<p>2. 各グループの発表と感想交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞き、「聞き取りメモ」に感想などを書く。</li> </ul> <p>・分かったことや良かったことなどを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表と感想の交流は、1グループずつ行う。</li> <li>・グループによってプレゼンテーションの方法が違うので、発表が円滑に進むように準備する。</li> <li>・「聞き取りメモ」につまずきのある児童には、アドバイスをする。</li> <li>・発表の内容を主に聞き取るようにするが、発表方法や話し方などにも着目させる。</li> </ul>	<p>状況に応じて適切な声の大きさや速さで話す。（言）〔発表の様子〕</p> <p>話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめる。（話・聞）〔行動の様子、メモの記述の確認〕</p> <p>集めた情報を取捨選択したり、発表方法を工夫したりして聞き手を意識して発表する。（選択能力）</p> <p>友達の発表を聞き、進んで感想を交流しようとしている。（関・意・態）</p> <p>視覚障害のある方などの生活や思いについて考え、自分たちができることなどについて考えを述べ合う。（役割把握・認識能力）</p>
<p>3. 学習のまとめをし、次時の予告を聞く。</p>		

## 本単元の学習活動の実際

本単元では、点字に限らず、「人にやさしい町」という視点で、自分が調べてみたいテーマを決め、共通しているところの多い児童がグループを作って一緒に活動することとした。その結果、大きく五つのグループができた。「日常品の点字等について」「施設のバリアフリーについて」「私鉄のバリアフリーについて」「手話について」「盲導犬について」である。

各グループの学習活動の様子は以下のとおりである。

### 日常品の点字等について調べたグループ

#### 1 Aグループ

ソースのふたを始め、冷蔵庫や洗濯機などの電化製品の点字について調べた。文字の表記と点字の表示が違うことや、数字しか点字表示がないことなどに気付いた。最後にクイズを交えてみんなの関心を引き付けた。

#### 1 Cグループ

電化製品の点字について調べた。電気掃除機や学校に設置してあるコピー機、トイレについても考察した。点字ではないが、数字の中央のボタンやよく使うボタンに凸点が打ってあること、「OFF」のボタンに線状の表示があることに気付いた。

#### 1 Bグループ

食器洗い機や冷蔵庫などの電化製品やボンドやシャンプーなどの日用品についても調べた。冷蔵庫の主機能ボタン三つが数字でしか示されていないことから、点字の便利さとともに不便さについても気付くことができた。中でもユニークな調べは、薬のビン底にある点字のような表示についてであった。点字としてはどうしても読めなかったのでメーカーにメールで問い合わせたところ、点字ではなく製造機械を表す表示とのことだった。また、シャンプーのユニバーサルデザインも発見した。

発表の様子



## ○施設のバリアフリーについて調べたグループ

### 2 Aグループ

学校の中と中央公民館を取材した。学校の中では昇降口のスロープや、車椅子用トイレなどについて調べた。中央公民館では、広い駐車場や車椅子の設置、トイレの工夫、エレベーターのボタンなどについて調べた。公民館へ行く途中の音声信号機にも気が付き、発表に取り入れていた。

### 2 Bグループ

市立図書館を取材した。館内の点字案内図や車椅子の設置、点字ブロックやトイレの工夫などのハード面と拡大読書機やテルミ（手で見る学習絵本）、L大活字本などのソフト面の両面から調べを進めた。機材の数の少なさなどの問題点について言及するなど、新たな気づきがあった。

### 2 Cグループ

主にポストや自動販売機について取材した。ポストの点字表示は、かなり詳しく内容が書かれていたが、ジュースの自動販売機については、コイン投入口やおつり口にしかなく、ジュースの商品表示はないことがわかった。視覚障害のある方は、経験的にボタンを押すしかなく、点字表示が不十分であることに気が付いた。



音読 ソフト



拡大読書機 かくだいどくしょき



〔児童の発表メモより〕

（説明）これは拡大読書機です。目の不自由な方が使います。黒い字が見やすい人と白い字が見やすい人がいるので、字の色を選ぶことができます。台に本をのせると、カメラにうつし出され、字が大きく見えます。

（感想）図書館に1台しかありません。5台ぐらいあるとみんなで使えと思っています。



テルミ（手で見る学習絵本）

## 私鉄のバリアフリーについて調べたグループ

私鉄のバリアフリーについて取材した。ホームの点字ブロックや電車の連結部の転落防止装置、両ドアの工夫、多目的トイレ、筆談器、誘導チャイムなど広い範囲にわたっての調べ学習となった。詳しい知識を持ったメンバーがいたので調べ学習にも深まりがあり、再現シーンなども取り入れて発表した。

児童は、取材に力を入れ、とっておきの情報を入手することができた。駅に筆談器があることなどは、直接駅員さんとコミュニケーションしなければ得られない情報である。

こうした発表をすることによって、聞く側も「そうなのか」と、実感を伴った理解をすることができる。

筆談器



## 手話について調べたグループ

テレビ番組の主題歌を手話で発表した。手話には、音を表す方法と単語そのものを表す方法があることを伝えた。最後は、クラス全体で手話を交えてその主題歌を楽しく歌った。

## 盲導犬について調べたグループ

盲導犬について調べを進めた。インターネットや本はもちろん、パラリンピックメダリストの選手を取材したり、その友人で盲導犬を所有している方ともメールを交換したりして情報を得た。盲導犬や訓練士の不足について触れるなど、調べ学習にも深まりが出た。中でも特筆すべきことは、メンバーの一人が選手に同行し、盲導犬の代わりを体験したことである。その体験により、現状のバリアフリーに問題点があることや盲導犬の貴重さに改めて気付くことができた。

発表の方法は、写真を CCD カメラでプロジェクターを通して写したり、模造紙にグラフをかいたりした。

また、選手に参観していただき、お話を伺ったり、質疑応答をしていただいたりした。

「日常品の点字等について」「施設のバリアフリーについて」「私鉄のバリアフリーについて」の各グループは、プレゼンテーションソフトを使って、画像を示しながら発表した。発表に際しては、発表メモを用意したが、当日はメモを見ることなく、顔をあげて堂々と発表していた。



キャリア教育ではぐくむ諸能力から本単元を見ると、次のように評価することができる。

### **コミュニケーション能力**

本単元では、発表において「コミュニケーション能力」の「友だちの発表を聞き、感想を交流する」という大きなねらいがあった。具体的には、「わかりやすい発表形式」と「ゆっくり大きな声で前を向いて話すこと」の2点を児童に気を付けさせた。

分かりやすい発表形式を考慮した結果、プロジェクターで大きくデジタル画像を映し出すディスプレイを取り入れたグループが多かった。

発表は、原則的にメモは読まずに画像を指示棒で示しながら前を向いて話すようにした。それは、児童にとって初めての経験だったので緊張感があり、練習にも熱が入った。発表の際、声の大きさや姿勢について相互評価させたことにより、友達の良い点に気付いた児童が多く、意識を高めることができた。

### **情報収集能力・探索能力**

各グループの取材内容は他のグループには秘密にするというルールの下「発見秘密カード」を各メンバーに持たせて取材をさせた。取材対象の施設や品物などはグループによって異なるので、児童はみんなを驚かせるような内容にしようと思意欲を持って取り組んだ。その結果、児童は教師も知らないような情報も収集していた。

### **選択能力**

グループ分けをする前にクラス全体で体験的な活動を行った。アイマスク体験や街中の見学、点字体験（打ったり、読んだり）を行い、何について調べを深めたいのか選択する力が付いた。また、グループで取材した内容を比較検討し、絞り込むことによって、児童は「選択能力」を身に付けていった。

### **課題解決能力**

発表の練習をする段階では、特に「課題解決能力」が必要とされた。どのような形式で発表するのか決まった後でも、わかりにくい点はないか、スライドの順番はこれでよいか、など様々な検討がなされた。児童宅に集合して発表の準備や練習をしたグループもあった。

このほか、「自他の理解能力」「職業理解能力」「役割把握能力・認識能力」といった観点から教材文「手と心で読む」を読み深め、点字や視覚障害のある方の生活や共に支え合っている人たちのことに意識を向けた。そのことにより、児童は自分たちの生活と関連させて教材文を深く読みこなし、グループの取材や調べ学習に対する意欲に結び付いた。

以上のことから、キャリア教育ではぐくむ諸能力からの様々なアプローチが、取材や発表に対する児童の意欲をかき立て、本単元で目指す国語科の内容の深まりにつながったことが児童の具体的な姿から見え、仮説を検証することができた。

## (6) 伊勢原小学校の研究のまとめ

### 成果

キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れた実践によって、検証授業の考察に示したとおり、国語科においてもキャリア教育としても効果が見られた。そして、それはキャリア教育の小学校段階で重視される「生き方教育」にもつながるものである。

実践した学級の児童は、バリアフリーや点字などに対する見る目が開かれ、発表後も新たな発見が子どもたちの間で続いている。

「特急電車にも転落防止装置が付いていたよ。」

「この前テレビのニュースで手話をやっている人が枠の中にいたよ。」

「点字ブロックで面白い形のものがあつたよ。」

などいろいろな話題があがった。

伊勢原小学校では、11月に「ふれあいフェスティバル」(総合的な学習の発表会を兼ねて、クラスごとに企画を見せ合う行事)が行われた。実践した学級の企画は、「バリアフリー体験ゾーン」になった。今まで総合的な学習の時間でボードウォッチングを主に行っていたので野鳥関連の企画になると予想していたが、多数の意見によって「バリアフリー体験ゾーン」になった。学級担任としては想定外の出来事であった。

このように、児童が実感を伴った理解、生き方に触れる学習ができたことは大きな成果であり、教科の授業改善を図ることができた。

### 課題

今後の課題としては、次の3点が挙げられる。

一つ目は、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点で系統的に考えることである。2学期に行われた本単元を踏まえて、3学期の「ごんぎつね」の単位ではどう取り組ませるのか、また、他の教科や他の学年とはどのように関連させていくのか、実践を積み重ねていく必要がある。

二つ目は、子どもの心を揺り動かすようなより深い教材研究が必要とされることである。児童が実際に体験したり、話を聞いたりする場を設けることが望まれる。教師は、コーディネーターとして連絡調整や準備等を適切に行うことが必要である。

三つ目は、一人ひとりの個性に応じた「個の見取り」である。キャリア教育ではぐくむ諸能力を各児童の視点から見るのが大切である。個々の長所を伸ばす、あるいは苦手なことを少しでも克服する、という目標を達成するには、「個の見取り」というきめ細やかな指導が必要である。

## 2 鎌倉市立大船中学校

### (1) 研究の概要

鎌倉市立大船中学校の学校目標を、“ 明朗、自主・自立 ” として、「人とのふれあい、自然とのふれあいを大切にし、自ら進んで人・自然と共に生き、共に学び、喜びを分かち合うことができる生徒の育成」を目指した学校運営を行っている。

キャリア教育については、これまで特に研究として取り上げてはいないが、長年職場体験活動を行っており、生徒に自らの生き方を考えさせる実践を続けている。

平成 20 年 1 月の「答申」の「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」にキャリア教育の重要性が記され、その後改訂された新学習指導要領では、現行の学習指導要領以上にキャリア教育に関する内容が含まれている。そこで、大船中学校では、職場体験活動を中心に据えたキャリア教育の指導計画の作成と、キャリア教育の教科等における具体的な実践が必要であると考えた。

この共同研究の主任には、総合的な学習の時間の担当主任を当て、他の担当者 3 名と、教育課程担当者 2 名を中心に組織的に取り組むこととした。その後、研究を進めていく中で道徳担当者や特別活動担当者等も含め、組織を拡大して取り組むことができ、新学習指導要領に向けた教育課程の見直しにもつながる研究になった。

また、国立教育政策研究所の藤田晃之総括研究官を講師に招いて「新学習指導要領におけるキャリア教育の位置付け」についての講演会を実施し、キャリア教育の重要性を理解することができた。

### (2) 研究のテーマと内容

研究テーマ：「職場体験活動を中心に据えたキャリア教育の推進」  
～ 第 2 学年職場体験活動前後の指導計画の改善～

研究の内容：職場体験活動に関する学習にキャリア教育ではくくむ諸能力の視点を取り入れ、特別活動や総合的な学習の時間だけではなく、道徳や教科と関連した学習となるよう指導計画の改善を図る。

### (3) 研究経過

#### (ア) 研究仮説の設定

職場体験活動を実施している公立中学校は、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが発行した「平成 20 年度全国キャリア教育・進路担当者等研究協議会資料」によると、平成 19 年度は 95.8% であり、前年度の 94.1% から 1.7% 増加している現状にある。すなわち、全国の公立中学校の大部分の学校が職場体験活動を実施している。しかし、全国的に見て職場体験活動が単独の取組になりやすいという課題が、国立教育政策研究所主催の平成 20 年度全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会で挙がっており、この職場体験活動を中心に据えたカリキュラムの見直しが求められている。

大船中学校では、職場体験活動で成果を上げていたが、全国的な課題と同様に、職場体験活動が単独の取組になっていたことと、キャリア教育ではぐくむ諸能力を意識した取組ではなかったことが課題であった。そこで、

**職場体験活動に関する学習に、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れることでキャリア教育の充実を図るとともに、教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間と関連した指導計画の改善を図り、将来の職業生活を意識させることにより、生徒に今の学習の必要性や大切さを理解させることができるであろう**

という仮説を立てて実践研究を進めることとした。具体的には、大船中学校では第 2 学年で実施する職場体験活動前後の取組を改善し、道徳や教科等での授業実践を行った。

大船中学校の生徒の実態から、自己理解能力や自己表現能力の育成が欠かせないと判断し、キャリア教育ではぐくむ諸能力をセンターが平成 17 年 3 月に発行した「キャリア教育推進ハンドブック」に示した 5 領域 10 能力（本冊子 6 ページ参照）によることとした。

まず、大船中学校の学校教育目標と生徒の実態に応じたキャリア教育目標を次のページに掲載する。

## 学校教育目標とキャリア教育目標

### 学校教育目標

#### 1. 明朗    2. 自主・自立

人とのふれあい、自然とのふれあいを大切に、自ら進んで人・自然と共に生き、共に学び、喜びを分かち合うことができる生徒の育成

#### 生徒の実態

素直さと明朗さを持った生徒が多い。  
落ち着いた雰囲気での学習に取り組むことができる。  
部活動や学校行事などを積極的に取り組み、成果を上げている。

#### 重点課題

主体的に学び、個が生きる学習指導  
ふれあい教育を通じた豊かな心を育てる集団づくり  
現地調査や職場体験活動等を通じた自己理解能力の育成

#### 地域の実態

工場・商店街・住宅地などが混在する地域であり、公共施設も多い。  
保護者には、本校卒業生が多数おり、学校に対して協力的である。

### 《キャリア教育目標》

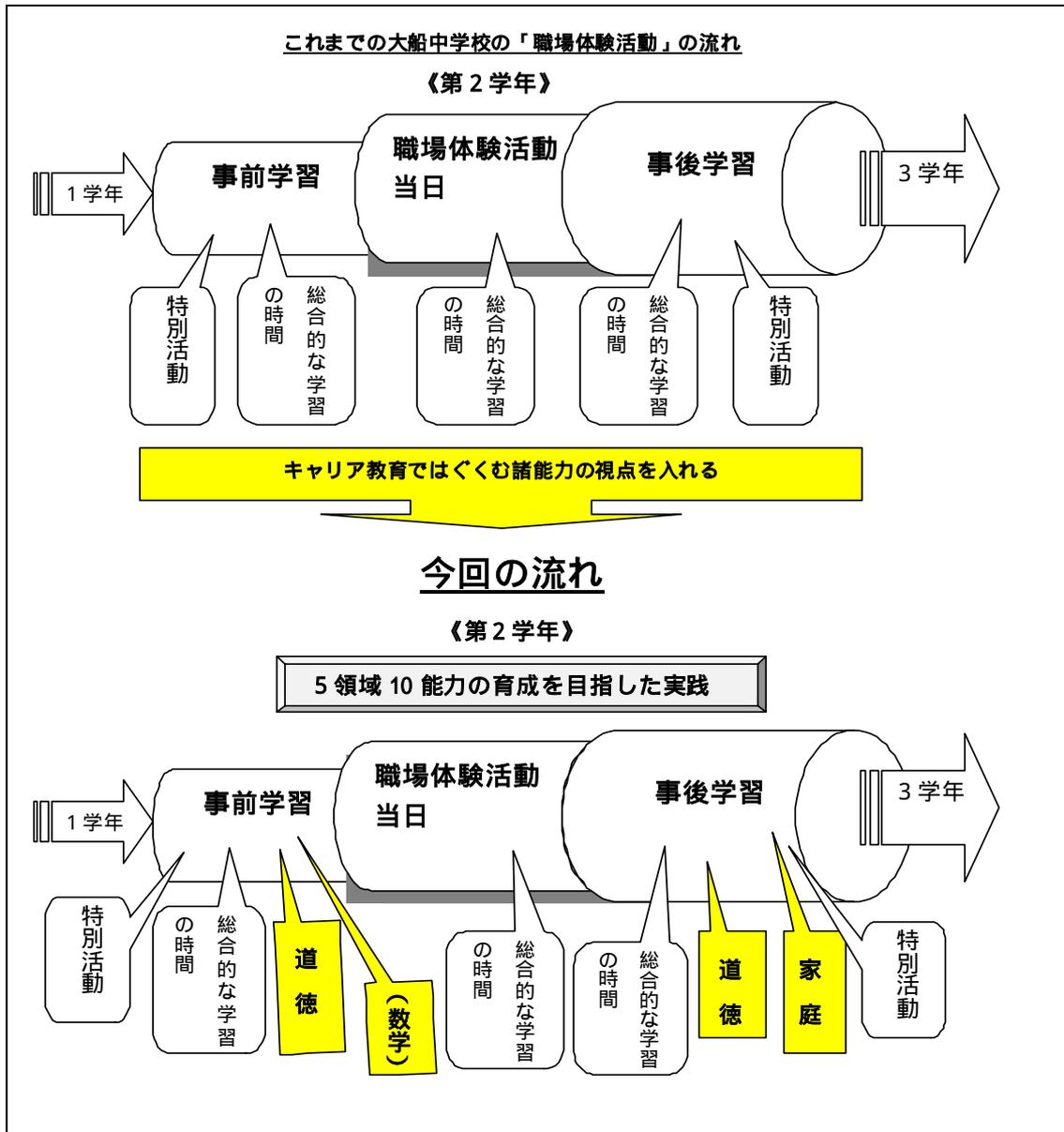
体験的活動や課題解決の学習を通して、学び方や、ものの考え方を身に付け、進んで課題の解決に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにするとともに、考えたことを自分の言葉で表現できる生徒を育てる。

### 各学年の指導目標

学年	第1学年 人とふれ合おう	第2学年 人と助け合って生きること について考えよう	第3学年 人と共に生き、共に学び、 喜びを分かち合おう
学年の指導目標	自分を伸ばすことの大切さを知り、自己を理解しようとする態度を養う。 集団の中の一員であることを自覚し、他者を理解しようとする態度を養う。 働くことの意義や目的について考える。	幅広く自己理解と他者理解を深める。 自己の特性と職業に対する適性等について考え、働くことの意義や自己の役割を考える。 考えたことを自分の言葉で表現する。 自分の進路を実現するための具体的な進路計画を検討する。	自己理解と他者理解を深め、互いを尊重し合う。 主体的に自らの進路を開拓していかうとする意欲や態度を大きく、自分の考えを他者に自分の言葉で伝える。 自らにふさわしい職業や学校などを選択し、社会人としての生き方や役割を考える。

## (イ) 実践を通しての仮説の検証

大船中学校では、今まで単元「職場体験活動」を特別活動や総合的な学習の時間で実施していたが、本研究では道徳と教科の学習を関連させ、キャリア教育ではなくくむ諸能力の視点を入れて取り組むこととした。



一連の学習を通して、キャリア教育ではなくくむ諸能力の5領域 10能力の育成を目指しているが、その中でも特に「自己理解能力」と「職業理解能力」の育成を目指し、生徒一人ひとりが「職業」や「働く」ことについて教科等を横断して繰り返し考えることにより、生徒に将来の職業生活とのかかわりを意識させ、今の学習の必要性や大切さを理解させることができると考えた。そこで、次のように指導計画を作成した。

## 第2学年で展開する単元「職場体験活動」の指導計画

時 数	内 容	キャリア教育で はぐくむ諸能力
第1時	<b>職場体験活動ガイダンス（特活）</b> 職場体験活動の意義や方法を知り、自分が体験したい職業を考え始める。	自己理解能力 職業理解能力
第2時	<b>身近な人の職業調べ（総合）</b> 身近な人の職業を調べ、様々な職業やその職業観を知り、「働く」ことの意味について考える。	情報収集・活用能力 職業理解能力
第3時	<b>職場体験活動希望調査1（総合）</b> 自分の興味・関心のあるもの、また現在の自分に合っていると思われる職業を希望する。	職業理解能力 選択・決定能力
第4時	<b>職場体験活動希望調査2：調整（総合）</b> 自分の興味・関心のあるもの、また現在の自分に合っていると思われる職業を再度考え、希望する。そして、特定の職業に希望が多く集まった時は、調整する。	職業理解能力 選択・決定能力
第5時 第6時	<b>職場体験活動ガイダンス（特活）</b> マナー・ルール（体験先訪問依頼でのあいさつ、体験中の態度、コース別ロールプレイング）の確認をする。	他者理解能力 コミュニケーション能力
第7時	<b>依頼文作成（総合）</b> お世話になる職場に自分の言葉で体験活動への思いを書き、依頼文を作成する。	自己理解能力
第8時 第9時	<b>コース別に職場体験活動先訪問準備（総合）コース別計画書作成</b> 職場体験活動先の情報収集を行い、探究学習のテーマや内容を考え、職場体験活動中の計画を立てる。	情報収集・活用能力 計画実行能力
第10時 第11時	<b>職場体験活動先訪問（総合）コース別計画書提出</b> 職場体験活動場所へ行き、体験活動のお願いをし、持ち物等の打合わせを行う。職場体験活動先の方の話を聞き、自ら勤労の意義を考える。	他者理解能力 コミュニケーション能力 職業理解能力
第12時 第13時	<b>コース別に職場体験活動事前学習（総合）</b> 実際に職場体験活動先の方の話を聞き、探究学習のテーマや内容を考え直す。	情報収集・活用能力 計画実行能力
第14時	<b>勤労・社会への奉仕（道徳）「働く」ことについて考えよう</b> 「職業」に対するいろいろな考えがあることを知り、「働く」ことについて考える。	自己理解能力 職業理解能力
第15時 第16時	<b>職場体験活動ガイダンス（特活）</b> 職場体験活動の事前ガイダンスを通して必要な事項を確認する。	役割把握・認識能力 課題解決能力

第17時 ～22時	<b>職場体験活動1日目(総合)</b> 職場体験活動を実施し、自ら勤労の意義を考える。	10能力
第23時 第24時	<b>職場体験活動1日目の振り返りと2日目に向けて(総合)</b> 1日目の活動を振り返り、2日目の計画を立てる。	職業理解能力 計画実行能力
第25時 ～30時	<b>職場体験活動2日目(総合)</b> 職場体験活動を実施し、自らの勤労の意義を再考(探究)する。	10能力
第31時 第32時	<b>職場体験活動2日目の振り返り(総合)</b> 2日目の活動を振り返るとともに、職場体験活動のまとめ計画を作成する。	職業理解能力 計画実行能力
第33時 ～42時	<b>消費生活に注目する(家庭)</b> 職場体験活動の経験を生かし、消費や消費者とは何かを考えるとともに自分の生活を振り返り、今後消費者の一人としてできることを実践する。	自己理解能力 自己表現能力 職業理解能力 課題解決能力
第43時 ～48時	<b>職場体験活動のまとめと礼状作成(総合)</b> 職場体験活動を振り返り、「働く」ことの意義を考えるとともに、体験先への礼状を作成する。	自己理解能力 自己表現能力 課題解決能力
第49時	<b>個性の伸長・向上心(道徳) 「志を立てる」について考えよう</b> 職場体験活動を通して経験したことを基に、自己の生き方について考える。	自己理解能力 役割把握・認識能力
第50時	<b>進路について考えよう(特活)</b> 職場体験活動を通して経験したことを基に、将来の自己の生き方を考えると同時に中学校卒業後の進路について考える。	自己理解能力 計画実行能力
第51時	<b>職場体験活動発表会に向けて(特活)</b> 発表会に向け、グループ毎の役割を確認し学習のまとめをする。	コミュニケーション能力 役割把握・認識能力
第52時 ～55時	<b>発表会(総合)</b> それぞれが体験を通して学んだことを発表し合い、「働く」ことや「仕事」について考える。そして、今の自分の「生き方」を見つめ直し、将来の「生き方」について考える。	コミュニケーション能力 職業理解能力 課題解決能力

【表中の略記】(特活): 特別活動、(総合): 総合的な学習の時間、(道徳): 道徳、  
(家庭): 技術・家庭科家庭分野

上記の表は、第2学年で展開する単元「職場体験活動」の指導計画を紹介したものである。前年度までの指導計画と違う点は、33ページに載せた流れの通り、特別活動や総合的な学習の時間だけではなく、道徳と教科の学習を関連させた点と、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れた点である。

指導計画の太線で囲んだ道徳と家庭科の授業実践を次に紹介する。

## (4) 道徳でのキャリア教育の実践

### 主題名とキャリア教育ではぐくむ諸能力など

(ア) 主題名 勤労・社会への奉仕 中学校学習指導要領道徳の内容項目 4(5)

#### (イ) 主題設定のねらい

内容項目 4(5)は、「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める」ことをねらいとしている。中学生の時期は、将来の職業についてのやりがいや、生活の充実感よりも、楽しさやあこがれに価値を見いだしがちである。職場体験活動をするに当たり、「楽しかった」「大変だった」という感想だけではなく、勤労の尊さや、意義、社会とのかかわりについて、しっかり意識できるような体験にして欲しい。

そのために、道徳の授業においてあらかじめ、職業に対するいろいろな考え方があることを知り、自分自身の「働く」ということについて、考えさせたい。

(ウ) 資料名 「私の職業を奪わないで」

(道徳資料「きみが いちばん ひかるとき 」)

#### (エ) 資料について

著者は、いつも掃除に来てくれるドイツ人女性職員の負担を減らそうという親切心から、自分の部屋の掃除をするが、そのことがドイツ人女性職員をかえって怒らせてしまう。その出来事から著者自身が「欧米」と「日本」の「職業」に対する考え方の違いを、具体例を挙げて分析し、「働く」こととはどういうことかを述べている。

#### (オ) キャリア教育ではぐくむ諸能力

前掲した通り、大船中学校では生徒が将来自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力や態度、資質として、5領域 10能力を設定した。本時の道徳の授業は、その中の2領域 2能力の育成を目指している。

##### 【自己教育能力】

「職業」や「働く」ことについて考えを深め、自己の職業的な能力や適性について考える。(自己理解能力)

##### 【情報活用能力】

様々な職業があることを知り、その職業に就いている人の生き方を理解する。(職業理解能力)

## 展 開

### 本時のねらい

「働く」ことの意義について考えを深め、勤労に励もうとする意欲を育てる。

### 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価 [ 評価方法 ] キャリア教育ではぐくむ諸能力
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読み、内容の確認をする。</li> </ul> 《発問1》 <ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツ人の女性職員は著者が掃除をしたことを知って、なぜ怒ったのだと思いますか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業に対する、いろいろな考え方があることに注意して読ませる。</li> <li>著者が掃除をしたことを怒り、もう一度掃除をし、著者が掃除をした以上にピカピカにしていた女性の行動は、自分の職業に対する誇りを持っているからこそ取った行動であることに気付かせる。</li> </ul>	
展開	《発問2》 <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から、欧米と日本との「職業」に対する考え方の違いをまとめてみよう。</li> </ul> 《発問3》 <ul style="list-style-type: none"> <li>あなたにとって、「職業」とはどういう意味の言葉ですか？また、「働く」ということはどういうことですか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>怒らせてしまった背景には、考え方の違いがあることに気付かせる。</li> <li>国によって言葉の持つ意味が違うように、同じ質問に対する答え方や、働くということに対する考え方、働き方にも違いがあることに気付かせる。</li> <li>一人ひとりに「職業」や「働く」とはどういうことだと思っているのか、どうありたいと思っているのかを改めて考えさせる。</li> </ul>	欧米と日本との「職業」に対する考え方の違いを考えようとする。[ 観察、ワークシート ] 様々な職業があることを知り、その職業に就いている人の生き方を理解する。(職業理解能力)  「職業」や「働く」ことについて考えを深め、自己の職業的な能力や適性について考える。(自己理解能力) 「職業」や「働く」ことの意義を理解する。[ 観察、ワークシート ]

	<p>《発問4》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これから職場体験活動を行うに当たって、あなたはどのようなことに注意し、どのような事を学びたいと思っていますか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験活動に当たって、学びたいことを改めて考え直し、真剣な態度で臨むことを意識させる。</li> <li>一人ひとりが考えたことを発表しやすいように配慮する。</li> </ul>	<p>学びたいことを考え直し、勤労の尊さを理解する。[観察、ワークシート]</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで出た意見をクラス全体に出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで出た意見の中から幾つかをクラス全体に発表させ、これからどのような態度で職場体験活動に臨むのかを考えさせる。</li> </ul>	<p>他のグループの意見を聞き、自らの考えを深めている。[観察、ワークシート]</p>



商店で働く生徒の様子



## 道徳のワークシート

月 日 ( ) 2年 組 名前

【1】 ドイツの女性職員は、著者が親切心で行った掃除に対して、なぜ怒ったのだと思いますか？

【2】 ドイツ語・英語・フランス語（欧米）と、日本語、または、欧米人と日本人の「職業」に対する考え方の違いを書いてみよう。

	ドイツ語・英語・フランス語(欧米)・欧米人	日本語・日本人
考 え 方		

【3】 あなたにとって、「職業」とはどういう意味の言葉ですか？また、「働く」ということはどういうことですか？また、どうありたいと思いますか？

「職業」とは・・・？	「働く」とは・・・？
------------	------------

【4】 これから職場体験活動を行うにあたって、あなたはどのようなことに注意し、どのような事を学んでこようと思いますか？

《本時のまとめ》

授業を振り返って、気が付いたことや思ったことを書こう！

## (5) 教科でのキャリア教育の実践

大船中学校の第2学年の技術・家庭科家庭分野では、職場体験学習後の時期に「消費生活に注目する」という題材を扱うが、昨年度までは生徒に消費者側の立場からのみ物事を考えさせていた。しかし、今回は指導計画を改善し、キャリア教育の視点を取り入れ職場体験活動の体験を基に、生徒に提供者（事業者）や従事者の立場からも物事を考えさせるよう工夫した。

### キャリア教育ではぐくむ諸能力と第2学年家庭科題材との関連表

関連表は、42・43ページを参照。

### 題材名とキャリア教育ではぐくむ諸能力など

(ア) 題材名 第2学年 技術・家庭科家庭分野 「消費生活に注目する」

(イ) 題材目標

- ・職業体験をふり返し、提供者（事業者）・従事者・消費者（利用者）の立場で考えたことを情報交換し共有する。
- ・自分の消費生活状況をふり返し、身近な情報源や販売方法の特徴（利点と問題点）から課題を見出す。
- ・消費者の保護や基本的な権利を知るとともに、消費者としてどうあるべきかを考え行動する。
- ・関心のある課題とテーマを設定し、情報を収集・選択・活用してまとめ、他者に発表・提案する。
- ・これまでの学びを生かし、消費者の一人としてできることを実践する。

(ウ) 題材について

消費者としての自覚を高め、環境に配慮した主体的な生活を営む能力と家族や地域社会の一員として、課題意識をもって生活をよりよくしようとする態度を育てることをねらいとし、学習する。その達成に向けて、生徒は家庭生活の自立と消費生活の課題解決のために、実践的・体験的な学習活動を行う。

生徒は、多様な情報があふれる環境の中で生活しているが、家庭や地域での実体験は決して多くない。環境問題なども意識することなく、限られた消費活動の日々を過ごしているのが現状であるが、職場体験活動では提供者（事業者）の指導のもとで、従事者として様々なことを感じ、考えることができる。

## (エ) キャリア教育ではぐくむ諸能力

技術・家庭科の家庭分野の学習内容は、キャリア教育の視点を網羅し、総合的に学ぶことができる教科である。

平成 20 年 1 月の中央教育審議会の「答申」の中で、中学校技術・家庭科家庭分野の「改善の具体的事項」に「衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習を通して、中学生としての自己の生活の自立を図り、子育てや心の安らぎなどの家庭の機能を理解するとともに、これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度の育成を重視する」( p.104 )とあり、キャリア教育を推進する上で、中心となる教科であると考ええる。

本題材「消費生活に注目する」も、42・43 ページの「キャリア教育ではぐくむ諸能力と第 2 学年家庭科題材との関連表」に示したように、5 領域・10 能力を網羅する展開である。その中でこの題材で特に重視する諸能力は次のとおりである。

### 【自己教育能力】

職場体験活動を振り返り、自己の適性に目を向ける。(自己理解能力)  
自分たちの考えを明確にし、創意工夫をして分かりやすく発表する。  
(自己表現能力)

### 【情報活用能力】

職場体験活動での経験を基に事業者の立場を考えることを通して、社会や職業生活との関連に気付く。(職業理解能力)  
販売には店舗販売・通信販売等、消費者保護には国民生活センター等、多くの人が多様な職種にかかわっていることを知る。(職業理解能力)

### 【意思決定能力】

学習を振り返るとともに、10 年・20 年後の自分と家庭・社会の状況を予想し、どのように生活していくかを理解する。(課題解決能力)

美容室で働く生徒の様子



## キャリア教育ではぐくむ諸能力と第2学年家庭科教材との関連表

			中学校
キャリア(職業的・進路的)発達段階			現実的探索と暫定的選択の時期
<b>キャリア発達課題(小～高等学校段階)</b> 各発達段階において達成しておくべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの			<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的自己理解と自己有用感の獲得</li> <li>興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成</li> <li>進路計画の立案と暫定的選択</li> <li>生き方や進路に関する現実的探索</li> </ul>
キャリア発達にかかわる諸能力			職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度
領域	領域説明	能力説明	
自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく	<b>【自己理解能力】</b> 自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の良さや個性がわかる</li> <li>自己の職業的な能力・個性について考える</li> </ul>
		<b>【自己表現能力】</b> 適切な自己表現を通して自己表現を図る能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する</li> <li>自分の考えや意見を筋道立ててわかりやすく説明する</li> </ul>
人間関係能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	<b>【他者理解能力】</b> 他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の良さや感情を理解し、尊重する</li> <li>自分の言動が相手や他者に及ぼす影響がわかる</li> <li>自分の悩みを話せる人を持つ</li> </ul>
		<b>【コミュニケーション能力】</b> 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする</li> <li>人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する</li> <li>リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする</li> <li>新しい環境や人間関係に適応する</li> </ul>
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす	<b>【情報収集・活用能力】</b> 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業・経済等の変化にともなう職業や仕事の変化のあらましを理解する</li> <li>上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略がわかる</li> <li>生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する</li> </ul>
		<b>【職業理解能力】</b> 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する</li> <li>体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いがわかる</li> <li>係・委員会活動や職場体験等で得たことを、今後の学習や選択にいかす</li> </ul>
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	<b>【役割把握・認識能力】</b> 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割やその進め方、よりよい集団生活のための役割分担やその方法等がわかる</li> <li>日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する</li> <li>様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える</li> </ul>
		<b>【計画実行能力】</b> 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際に行動等で実行していく能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める</li> <li>進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する</li> <li>将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する</li> </ul>
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	<b>【選択・決定能力】</b> 様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定をし、その結果を責任を持って受け入れ、適応・対処できる能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする</li> <li>選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任がともなうことなどを理解する</li> <li>教師や保護者と相談しながら、当面の進路を決定し、その結果を受け入れる</li> </ul>
		<b>【課題解決能力】</b> 希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面にいかす</li> <li>よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する</li> <li>課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする</li> </ul>

## 紙面の都合上、1年間に学習する題材の一部を掲載

第2学年		
食生活を考える	食生活を変える	消費生活に注目する
<ul style="list-style-type: none"> <li>・魚食文化を見直し、鯖を手開きにして調理する。</li> <li>・日本の伝統食に注目し食料・資源・かかわる人々・環境などの視点で課題を見出し、食生活を考える。</li> <li>・食生活に関わる身近なテーマを決め、討論して意見交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の食生活での問題や課題をあげ、解決に向けて自分が実行できることを計画し、実践する。</li> <li>・「世界がもし100人の村だったら たべもの編」から日本と世界の食事情を知り、自分にできることを考え、実践につなげる。</li> <li>・学習をふり返り、自己評価し新たな課題を見出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の消費生活をふり返り、身近な情報源や販売方法の特徴から課題を見出す。</li> <li>・職場体験から事業者・従事者・利用者のそれぞれの立場で考え、学びを共有する。</li> <li>・消費者の保護や基本的な権利を知り、消費者としてどうあるべきかを考え行動する。</li> <li>・自分たちの消費活動と環境問題が密接に関わっていることを知り、日常生活において、どのように「人・もの(資源)・環境」を大切に消費活動ができるかを考え、実践する。</li> </ul>
キャリア教育ではぐむ諸能力		
自分の食生活を「地産地消」の視点で見直し、課題を発見する。	自分の食生活は、様々な地域や国の資源や人々に支えられていることを理解する。	消費者としての自分の生活について見つめ直す。職場体験活動を振り返り、自己の適性に目を向ける。自分ができることについて考え、自分の生活を見つめ直す。
自分の考えや意見を根拠を持って分かりやすく説明する。	食生活の学習をふり返り、5つのキーワードをもとに自分の言葉を追加し「コンセプトマップ」で表現する。	自分たちの考えを明確にし、創意工夫をして分かりやすく発表する。
自分と異なる考えも理解し、互いに認め合う。	開発途上国で生活する人々の食事情を知り、状況の理解を深める。	他者の考えを聞き、それぞれの考えを理解しようとする。
司会、ディベーター、フロアー、審判などの立場を理解し、チームを組み、力を合わせて討論を進め、より説得ある結論を導き出す。	食生活における各自の課題と、その解決の実践報告をしながら、互いの情報を共有し、考えを深める。	相手の立場に配慮しながら、質問や反論ができる。日常の消費生活状況を短歌で表現した「環境かるた」を通して、いかに自分たちの生活が環境問題とかがわっているかを認識し、共有する。
食生活に関する調査活動や自分の体験などから収集した情報をいかに考えをまとめ、意見や主張を分かりやすく伝える。	日本や外国の食生活に関する情報を、新聞・広報誌・テレビ・インターネットなどの様々なメディアを利用して収集し、選択して活用する。	消費者問題に関する情報を集め、消費者としての自己の生き方を見直す。環境や資源を守る「循環型社会」のための「4R」の例と特徴に関する情報を収集し、消費者として優先して実行すべき「R」は何かを理解する。
一尾の鯖を手開きにした後、金子みすゞの「大漁」の詩を読み、漁師(人間)の役割について理解する。	ネパール取材での「少女ランマヤの給食ものがたり」を読み、家族のために働く姿から、勤労の意義や働く人々の様々な思いについて知る。	職場体験活動での経験を基に提供者(事業者)や従事者の立場を考えることを通して、社会や職業生活との関連に気付く。販売には店舗販売・通信販売等、消費者保護には国民センター等、多くの人が多様な職種にかかわっていることを知る。
ディベートを円滑に進めるための役割を分担し、自分の立場を認識して議論を深める。	ネパールの少女、ランマヤの日常生活での役割分担、家族への思い、将来の夢などを通して、自分の生き方を考える。	将来、家庭や社会を担う一人として、権利だけでなく、消費者や提供者としての責任を果たすことの大切さを認識する。
自分とは異なる意見も尊重し、新たな「食」の学びを日常の生活にいかし実践する。	地球上の生命が共に生きていくために、自分の食生活や消費活動はどのようにしていくべきか課題をあげ解決に向けて計画し、実行する。	自分にも環境を守る責任があることを自覚し、日常生活の中で継続して取り組むことができることを実践する。
多くの意見を聞いた上で自分なりの選択をして結論を出す。最終の結果を受け入れ、多面的なものを見方や考え方に対応する。	学習の振り返りをC・マップで表す時「食べ方・健康・生命・環境・資源」の言葉以外の「知識、気付き、深まり、広がり」に関する言葉を吟味・選択し、説明する。	持続可能な社会にするために、消費者として商品を選択するとき、いろいろな観点から検討し、総合して判断できるようにする。
論点を明確にして仲間と協力し、課題に取り組む。	学習を振り返り、自分で実践できる新たな課題を見出し、解決に取り組む。	トラブル事例を通して、問題解決方法について知る。10年後・20年後の自分と家庭・社会の状況を予想し、どのように生活していくことが大切かを理解する。

\*「キャリア(職業的・進路的)発達段階」と「現実的探索と暫定的選択の時期」の欄は、「キャリア教育推進ハンドブック」(平成17年3月センター)16・17ページより引用

## 単元の指導・評価計画（全 10 時間）

評価の観点

a:生活や技術への関心・意欲・態度    b:生活を工夫し想像する能力（工夫・創造）

c:生活の技能

d:生活や技術についての知識・理解

時間	学習内容	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育で はぐくむ諸能力
			a	b	c	d		
1	職場体験活動を振り返る (次ページに展開例)	・消費や契約について理解し、職場体験での提供者（事業者）・従事者・日常の消費者のそれぞれの立場で考えることができる。					授業観察 ワークシート 定期試験	消費者としての自分の生活について見つめ直す。（自己理解能力） 職場体験活動を振り返り、自己の適性に目を向ける。（自己理解能力） 職場体験活動での経験を基に提供者（事業者）や従事者の立場
2	今、購入したいものに注目する	・広告やパンフレットを見て、商品の選択方法について考えようとしている。					授業観察 ワークシート	を考えることを通して、社会や職業生活との関連に気付く。（職業理解能力）
3 4	消費者問題を見いだす	・消費者問題を見だし、情報を収集・選択・活用し、解決方法を考えることができる。 （b） ・販売方法の特徴や消費者保護、基本的な権利について理解している。 （d）					授業観察 ワークシート 定期試験	消費者問題に関する情報を集め、消費者としての自己の生き方を見直す。（情報収集・活用能力） 販売には店舗販売・通信販売等、消費者保護には国民生活センター等、多くの人が多様な職種にかかわっていることを知る。（職業理解能力） トラブル事例を通して、問題解決方法について知る。（課題解決能力）
5	課題解決への提案を作成する	・収集した情報を選択してまとめることができる。 （c）					授業観察 ワークシート	将来、家庭や社会を担う一人として、権利だけではなく、消費者や提供者としての責任を果たすことの大切さを認識する。（役割把握・認識能力）

6		・情報を見極め、関心をもって課題に取り組もうとしている。(a)					相手の立場に配慮しながら、質問や反論ができる。(コミュニケーション能力)
7	課題解決への提案を発表する	・情報を活用し、まとめたことを分かりやすく表現することができる。(c)				授業観察 ワークシート 定期試験	自分たちの考えを明確にし、創意工夫をして分かりやすく発表する。(自己表現能力) 他者の考えを聞き、それぞれの考えを理解しようとする。(他者理解能力) 環境や資源を守る「循環型社会」のための「4R」の例と特徴に関する情報を収集し、消費者として優先して実行すべき「R」は何かを考える。(情報収集・活用能力)
8		・消費活動と環境問題が密接にかかわっていることを理解している。(d)					
9	自分ができることを考える	・収集した様々な情報を活用し、これからの消費活動や表現活動にいかそうとしている。				ワークシート	自分ができることについて考え、自分の生活を見つめ直す。(自己理解能力) 持続可能な社会にするために、消費者として商品を選択するときに、いろいろな観点から検討
10	「環境かるた」を通して、将来の生活の仕方について考える	・持続可能な社会にするために、消費者問題や情報を見極め、環境を考えた消費活動をしようとしている。				授業観察 ワークシート	し、総合して判断できるようにする。(選択・決定能力) 自分にも環境を守る責任があることを自覚し、日常生活の中で継続して取り組むことができることを実践する。(計画実行能力) 日常の消費生活状況を短歌で表現した「環境かるた」を通して、いかに自分たちの生活が環境問題とかがわっているかを認識し、共有する。(コミュニケーション能力) 10年・20年後の自分と家庭・社会の状況を予想し、どのように生活していくことが大切かを理解する。(課題解決能力)

【表中の略記】評価規準の( )内のa,b,c,dは、評価の観点を示している。

## 展開例（単元の1時間目）

### （ア）本時の目標

消費・消費者や契約について理解し、職場体験活動の経験をいかし、様々な立場から考えることができる。

### （イ）本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準(観点)[評価方法] キャリア教育ではぐくむ諸能力
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習目標や学習内容、学習の進め方、観点別評価などを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10時間扱いの学習活動の概要を把握させ、授業予定の月日を確認し、見通しをもたせる。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費・消費者とは何かを考え、ワークシートに記入する。</li> <li>契約とは何かを考え、記入したことを述べる。</li> <li>神奈川県民部消費生活課発行の「かしこい消費者」を読み、消費・契約の意味を確認する。</li> <li>提供者、従事者、消費者の立場で考え、ワークシートに自分の考えを記入する。</li> <li>4人グループで一人ひとりの考えを発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のつぶやきや小さな声も取り上げ、発言しやすい雰囲気を作る。</li> <li>職場体験活動も、事業所と中学校、事業者と中学生との間でとり交わされた契約であることを認識させる。</li> <li>サービス業には接客だけでなく、人のために力を尽くす仕事も含むことを理解させる。</li> <li>自分の職場体験先と該当する職種を記入し、受け入れ先の提供者の思い、そこで働いた従事者である自分、日常の利用者や消費者としての自分、それぞれの立場になったの考えをワークシートに記入させる。</li> <li>4人グループにして、それぞれの考えを発言しやすいように配慮する。</li> </ul>	<p>消費・消費者や契約について、考えている。(工夫・創造)[観察、ワークシート] 消費者としての自分の生活について見つめ直す。(自己理解能力)</p> <p>職場体験活動の経験をいかし、様々な立場から考えている。(工夫・創造)[観察、ワークシート] 職場体験活動を振り返り、自己の適性に目を向ける。(自己教育能力) 職場体験活動での経験を基に提供者(事業者)や従事者の立場を考えることを通して、社会や職業生活との関連に気付く。(職業理解能力)</p>

まとめ	・グループで情報交換して気付いたことや疑問などをワークシートにまとめ、学級全体に発表し共有する。	・発表後に質疑応答や意見交換などの時間を確保し理解や気付きを深めるようにする。	消費・消費者や契約について理解し、日常生活にいかそうとしている。(工夫・創造) [ワークシート]
-----	--	---	---

### 家庭科のワークシート

2年\_\_組\_\_番 氏名\_\_\_\_\_

あらためて考えてみよう!

・消費・消費者って何だろう?

・契約って何だろう?

職場体験を終えて：それぞれの立場になって考えてみよう。

あなたの職場体験先【           】は【サービス・販売・生産・その他           】

提供者として考えること	従事者として考えること	消費者・利用者として考えること

情報交換しての気付きや疑問など

## (6) 検証授業の考察

単元「職場体験活動」では、キャリア教育ではくくむ諸能力の視点を取り入れ、特別活動や総合的な学習の時間だけではなく、道徳と教科（技術・家庭科家庭分野）と関連付けた指導計画を作成し、生徒一人ひとりに「職業」や「働く」ことについて教科等を横断して繰り返し考えさせたことにより、生徒は「職業」や「働く」ことを自分自身の問題ととらえ、勤労観や職業観を育てることができた。

### 職場体験活動前

職場体験活動前に、「なぜ、働くのか？」という質問を 30 人の生徒にしたところ次のような結果であった。

・「お金のため」、「生活のため」に働く	19 人（約 63%）
・「人を助けるため」	5 人（約 17%）
・「生きがい」	3 人（10%）
・「その他」	3 人（10%）

「なぜ、働くのか？」という質問に対して、この時点ではクラスの約 3 分の 2 の生徒が「お金のため」「生活のため」と答えており、「職業」や「働く」ことを表面的、一面的にとらえていることがうかがえた。そこで、道徳の授業を通して、「職業」や「働く」ことについて考えさせたが、まだ生徒は「職業」や「働く」ことと自分自身との関係についてまで考えるにはいたっておらず、生徒の変化を見取ることはできなかった。しかし、道徳の授業で考えた「職業」や「働く」ことについて、その後の職場体験活動や一連の学習を通して、生徒の考えは大きく変化した。

### 職場体験活動

職場体験活動を通して、生徒は次のような感想を持った。

Aさん

2 日間を振り返ると、本当にいろいろな作業があつて、これらが全部頭の中に入っているのがまずすごいと思った。また、現在の農業のほんの一部にすぎない所しか見えていないのに、いろいろと問題があり、継ぐ人の問題は特に深刻そうだった。

けれど、「毎日野菜が育っていくことや収穫の嬉しさ、販売するときに消費者の声が聞けるんだ」と楽しげに話す農業従事者の方の顔や育った野菜を誇らしげにお土産として差し出してくれた奥さんの顔が印象に残っていて、農業に少し心動かされた。もちろん大変さがあるから、嬉しさも増えるのだろうとぼくは思った。

Bさん

かわいい園児たちに囲まれて、とても楽しく過ごすことができた2日間でした。先生の仕事は大変な事が多く、「こんな大変な仕事を毎日・・・」と思うと、保育園の先生は思いやる心、冷静な分析力、そして体力が必要だということが分かりました。自分の子どもでない子どもを楽しく、よい子に、安全に世話することの大変さを感じることができ、「働く」ことについて考えさせられました。

Aさんは農家で体験活動を行い、二日間の体験期間中に農家の喜びや抱えている問題について考えるようになった。また、Bさんは保育園で体験学習を行い、保育園の先生が身に付けておくといふ力について気付き、「働く」ことについて考えを深めている。

この二人以外の生徒も、体験活動を通して今まで考えたことのない立場から物事を考えるようになっている。



農家で働く生徒の様子

### 職場体験活動後

職場体験活動後に、前回と同じ「なぜ、働くのか？」という質問を同じクラスの子にしたら、結果は次のような結果であった。

・「その他」	23人(約77%)
・「大変でつらいがやりがいがある」	4人(約13%)
・「生きがい」	3人(10%)
・「お金のため」、「生活のため」に働く	0人(0%)

体験活動後の結果を見るとクラスの約77%が「その他」となっており、体験活動前とは大きく変化している。その他の意見としては、「お金をもらうだけでなく、人の役に立つため」「体験先の方が、自分の仕事に誇りを持って働いていた。働くためには、誇りが必要である」等、「働く」ことに対して一人ひとりが安易に答えを出すのではなく、質問に対し真剣に考えている様子を見取ることができ、生徒一人ひとりの職業観・勤労観が育成されていることが分かった。

家庭科の授業では、職場体験活動後のこの時期に「消費生活に注目する」の題材を学習するので、職場体験活動と関連させて授業を行うことにより、生徒は消費者の立場だけではなく、事業者(提供者)や従事者の立場で物事を考えることができると考え実践したが、私たちが考えていた以上に生徒はそれぞれの立場で物事を考えることができていた。次に生徒のワークシートを紹介する。

## 生徒のワークシート

★あらためて考えてみよう！

消費・消費者って何だろう？  
 商品を買う、それを扱う、お金を使わなくてフリーマーケットなどのぶらっ交換やタダでもらったりも消費  
 商品を買ったり扱う。

契約って何だろう？  
 電車に乗る、約束することは全て契約、商品を買うことも全て契約である。  
 例)新聞配達、ケイタイ、借りる、ロッカーを利用 etc

★職場体験を終えて：それぞれの立場になって考えてみよう。

あなたの職場体験先【 】は【サビ屋・販売・生産・その他】

提供先 提供者として考えること	働く自分 従事者として考えること	自分の自分 消費者・利用者として考えること
指輪している側も楽しんで、うれしかった。自ら仕事をさがしてびっくりした。みんながんばっていた。来ている生徒がみんなと比べて、とても助かった。性格にもよるが、今回の子はおとなしくて自分からはあまり意見を言わないでいることが多かった。	自分がまだ学校で過ごしている時には分からない、「働く」ということはとても大変だけれどやりがいがあることが分かった。インタビューをしたが、小さい子たちの世話が大変そうだった。未だに出来なかった。よって、生徒の気持ちになってみて、小さい子と接したりインタビューしようとしたことが少し分かった。自分ではなかなか知らない人の子供の世話をすることはとても大変に行わないといけない。とてもせきと感を持つことが大切なんだと思った。	自分の子供が、自分の見えない所で生活しているのは少し怖い。だから、先手を信じたい。
情報交換しての気づきや疑問など、働くことはとても大切な事である。でも、失敗は許されない。だから働くことはやりがいがあり、サービスを受ける人が良い気持ちで利用することが出来る。どの事業者でもその仕事にやりがいを持って働いている。そして、利用する人の気持ちを考えながら一つ一つの作業を丁寧に、速くこなしていく。それが、働くということだと思った。安全に配慮して、利用者に安心して利用してもらうことが大切だということも分かった。		

Cさん

働くことはとても大切な事である。でも、失敗は許されない。だからこそ働くことはやりがいがあり、サービスを受ける人が良い気持ちで利用することができる。どの事業者でもその仕事にやりがいを持って働いている。そして、利用する人の気持ちを考えながら一つ一つの作業を丁寧に、速くこなしていく。それが、働くということだと思った。安全に配慮して、利用者に安心して利用してもらうことが大切だということも分かった。

Dさん

消費者として利用していたときには気が付かない商品の並べ方等には、お店の工夫がある。それぞれのお店でいろいろ工夫していることが分かった。

Eさん

提供者、従業者、利用者にそれぞれ責任があって不正はいけない。自分達は、日々たくさんの方に支えられていて、その人々に感謝しないといけないと分かった。そして、自分で判断する力が必要だ。

Fさん

消費者は、提供者や従事者のことを信じるしかないのだと分かったとき、提供者や従事者の努力がとても大切であり、支え合って生きていく上で重要なことだと気付いた。働くことは社会に貢献する大切なことだと思った。

生徒がワークシートに書いた記述を読むと、職場体験活動の経験がこの学習に大きく役立っていることが分かる。例えば、Cさんの「どの事業者でもその仕事にやりがいを持って働いている。そして、利用する人の気持ちを考えながら一つ一つの作業を丁寧に、速くこなしていく」という記述やDさんの「消費者として利用していたときには気が付かない商品の並べ方等」という記述などは職場体験活動を通して生徒自身がお世話になった事業所の方々から学んだ点であり、これらの記述は実際に経験しないと出てこないものである。また、Eさんの「日々沢山の提供者に支えられていて、その人々に感謝しないといけない。」という記述は、物を提供する側の大変さを経験したからこそ出た意見であり、職場体験活動の経験が家庭科の学びを深化・補充していることが理解できる。

その他、Fさんの「働くことは社会に貢献する大切なことだと思った」という記述にみられるように、働くことと社会や職業生活との関連に気付いた生徒が多かった。



食品を袋詰めしている生徒の様子

次にキャリア教育ではぐくむ諸能力の視点から本単元を見ると、5領域10能力のすべてを育成することが可能であるが、その中でも特に「職業理解能力」と「自己理解能力」の育成を目指し、指導計画を作成した。その能力に関しては、次のように評価することができる。

### **職業理解能力**

職場体験活動前に「なぜ、働くのか？」と生徒に質問したところ、「職業」や「働く」ことについて真剣に考えている生徒は少なく、1クラスの約3分の2もの生徒が「お金のため」、「生活のため」に働くと答えており、深く考えずに答えを出す生徒が多かった。

ところが、指導計画に従い学習を進めるうちに、生徒たちの考えは変化し、一人ひとりが「職業」や「働く」ことを真剣に考えるようになり、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かった。

## 自己理解能力

自己の職業的な能力や適性を考え、今回は職場体験活動場所を生徒自身に選ばせている。例えば、

男子生徒のGさんは、進んで部品工場を選んだ。Gさんは、日ごろの学校生活では、おとなしく消極的な生徒であったが、この体験活動の最中は工場の人に自ら進んで質問をし、積極的にメモを取っていた。体験活動後は、まとめ学習において、部品工場グループのリーダーを務め、積極的に行動するようになっている。



部品工場働く生徒の様子

女子生徒のHさんは、自己の職業的な能力や適性を考え、園芸場を選んだ。園芸場を選んだ生徒は一人であったが、それを気にせず、二日間とも与えられた仕事を立派にこなすことができた。教師が体験活動の様子を見に行った時には、二日間共生き生きと働いていた。



園芸場で働く生徒の様子

一連の学習を通し、上記のような生徒の姿を見取ることができた。このように自己の職業的な能力や適性を考えさせ、そこから体験場所を選ばせたことにより、生徒は積極的に職場体験活動に参加し、自らの職業的な能力や適性について経験を通して学ぶことができたといえる。

その他の能力についても、本単元「職場体験活動」を通して、単元学習前に比べ育成されている。例えば、「役割把握・認識能力」は、先に紹介したBさんの感想から分かるとおり、それぞれの仕事の役割や意義を把握し始めた生徒が多数いる。また、「他者理解能力」は、生徒が書いた家庭科のワークシートを見ると分かるとおり、提供者や従事者の立場からも物事を考えられるようになっており、本単元を学習する前にはできなかったことである。

キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れ、教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間と関連した指導計画にしたことにより、上記以外の能力も育成されており、生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てることができた。

## (7) 教科でのキャリア教育の実践

職場体験活動の事前学習の期間中に、数学科でもキャリア教育の実践を行うことにした。単元「職場体験活動」に関連した教科等以外で授業実践をしたのは、キャリア教育ではくくむ諸能力の視点を取り入れることにより、教科のねらいを達成させるための授業改善につながり、生徒が今の学習の必要性や大切さを理解することができると思ったためである。

### 単元名とキャリア教育ではくくみたい諸能力など

(ア) 単元名 第2学年 数学 「1次関数」

(イ) 単元目標

具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、1次関数について理解するとともに、関数関係を見だし、表現し考察する能力を養う。

(ウ) 単元について

この単元では二つの伴って変わる数量の関係について学習する。そこで、生徒には二つの伴って変わる数量について、表やグラフ等を使って一次関数の特徴を考察する力を付けさせたい。

本校は、明るく陽気で自分で努力して問題を解こうとする意欲がある生徒が多い。グラフの特徴や数量の関係などに気付いてはいるが、気付いたことを自分の言葉で表したり、問題の解き方や解く時の考え方等を説明したりすることは苦手である。

自らの考えを進んで発表することが苦手である理由は、自らの考えに自信が持てないからである。そこで、特にこの1次関数の単元では、自らの考えを表現しやすいように、生徒たちが考えたことを図や表、グラフ、式等で表すことができるように支援する。

(エ) キャリア教育ではくくみたい諸能力

本単元で特に重視する諸能力は次のとおりである。

【自己教育能力】

自分の考えを言葉・式・グラフ・式などで表すことにより、自分の考えを進んで発表する。(自己表現能力)

【情報活用能力】

世の中(社会)で使われている1次関数について情報収集することにより、社会・職業生活との関連に気付く。(職業理解能力)

【意思決定能力】

問題内容を把握し、筋道を立てて物事を考え解決しようとする。(課題解決能力)

## 単元の指導・評価計画（全 17 時間）

評価の観点 a: 数学への関心・意欲・態度 b: 数学的な見方や考え方

c: 数学的な表現・処理

d: 数量、図形などについての知識・理解

時間	小単元	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育で はぐくむ諸能力
			a	b	c	d		
1	1 次関数	・二つの数量の関係を表、式、グラフで表すことを通して、関数関係に関心を持ち、それらを調べようとする。(a)					授業観察 ノート 定期試験	ダイアグラムの他に、世の中(社会)で使われている1次関数について、情報を収集する。(情報収集・活用能力) 世の中(社会)で使われている1次関数について情報収集することにより、社会・職業生活との関連に気付く。(職業理解能力)
2		・「yはxの1次関数である」ことの意味を理解している。(d)						
3		・世の中(社会)で使われている1次関数に関心を持ち、情報を収集しようとする。(a) ・yの増加量を求めることができる。表を活用し、変化の割合を求めることができる。(c)						
4	1 次関数の グラフ	・式から表を作って、1次関数のグラフの様子を調べることができる。(c)				授業観察 ノート 小テスト 定期試験	自分の考えを言葉・式・グラフ・表などで表すことにより、自分の考えを進んで発表する。(自己表現能力) 問題内容を把握し、筋道を立てて物事を考え解決しようとする。(課題解決能力)	
5		・変化の割合と1次関数のグラフの傾きとの関係を考察することができる。(b)						
6		・1次関数のグラフと比例のグラフとの関係を考察することができる。(b)						
7		・1次関数の傾きや切片とグラフとの関係を理解している。(d)						
8		・変域が限られている1次関数のグラフを書くことができる。(c)						

9	直線の式の求め方	・直線の式を求めることに 関心を持ち、調べようとして いる。(a)				授業観察 ワークシ ー ト 小テスト 定期試験	自分の考えを言葉 ・式・グラフ・表な どで表すことによ り、自分の考えを進 んで発表する。(自己表現能 力)
10		・2点の座標が分かると、 1次関数のグラフを書 くことができることを 理解している。(d)					
11	1次関数の利用 (次ページに展開例)	・1次関数が日常の事象に 深くかかわっていること に気づき、問題の解決に 生かすことができる。(b)				授業観察 ワークシ ー ト 定期試験	携帯電話の料金表 から、自分に合った 料金プランがどれ かを考える。(課題 解決能力)
12	確認問題	・1次関数の表、式、グラ フなどを用いて、具体 的な事象を表現したり、 処理したりすることが できる。(a)(c)					自分の考えを言葉 ・式・グラフ・表な どで表すことによ り、自分の考えを進 んで発表する。(自己表現能 力)
13							
14	方程式と 1次関数	・1次関数と2元1次方 程式の関係を理解して いる。(d)				授業観察 ノート 小テスト 定期試験	他者の多様な考え を理解しようする。 (他者理解能力)
15		・連立方程式をグラフを用 いて解いたり、2直線の 交点の座標を計算で 求めたりすることが できる。(c)					問題内容を把握 し、筋道を立てて物 事を考え解決しよ うとする。(課題解 決能力)
16							
17	単元のま とめ(発展問題)	・問題に応じて、適切な解 決の方法を考慮する ことができる。(c)				授業観察 定期試験	

【表中の略記】評価規準の( )内のa,b,c,dは、評価の観点を示している。



## 展開例（単元の11時間目）

### 本時の目標

身のまわりの事象の中にある問題を、1次関数を使って解決することができる。

### 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準（観点）[評価方法] キャリア教育ではくむ諸能力
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話の料金は、基本使用料と通話料によって違うことを知る。</li> <li>一人ひとりに適した携帯電話の料金プランを選ぶには、どうしたらよいのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本使用料や通話料について、補足説明する。</li> <li>携帯電話の料金表を提示する。（ワークシート1参照）</li> <li>携帯電話の料金表から、通話時間と料金の関係に着目し、利用状況に合った会社を選ぶにはどうしたらよいかを考えさせる。</li> </ul>	<p>携帯電話の料金表から、自分に合った料金プランがどれかを考える。（課題解決能力）</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>料金表を比較し、通話時間に応じた適切な料金プランを考える。</li> <li>比較した結果をグループ内で発表する。</li> <li>自らの考えを発表し、他者の発表を聞き、どのように考えたのかを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>料金表から読み取ったものを適切な方法で表現させる。</li> <li>携帯電話を使用する人の状況によって、どのプランが最も料金が安くなるのかを考えさせる。</li> <li>他者が作成した式・グラフ・表などから、それぞれの表し方の意図や良さを考えさせる。</li> </ul>	<p>1次関数が日常の事象に深くかかわっていることに気付き、問題解決に生かすことができる。（見方・考え方）[観察、ワークシート]</p> <p>自分の考えを言葉・式・グラフ・表などで表すことにより、自分の考えを進んで発表する。（自己表現能力）</p> <p>他者の多様な考えを理解する。（他者理解能力）</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>通話時間に応じた適切な料金プランを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら考えた料金プランが適切であったかを確認させ、今後選ぶときには何が重要であるかを認識させる。</li> </ul>	

## 数学科のワークシート1

### ワークシート1

\_\_\_月\_\_\_日 \_\_\_年\_\_\_期 氏名\_\_\_\_\_

【あなたは、携帯電話で1ヶ月何分くらい通話しますか、または、通話したいですか】

【携帯電話料金表】

		料金形態	
		基本使用料	通話単位と通話料
会社名	A社	基本料金8000円	100分までは、無料 それ以後は、1分で20円
	B社	基本料金6000円	1分で40円
	C社	基本料金4000円	1分で60円

【あなたならば、どの会社を選ぶかな？理由を書こう。】

## 数学科のワークシート2

### ワークシート2

\_\_\_月\_\_\_日 \_\_\_年\_\_\_期 氏名\_\_\_\_\_

【お題してみよう】

(1) 通話料

A社

x (分)	0	50	100	150	200
y (円)	8000				

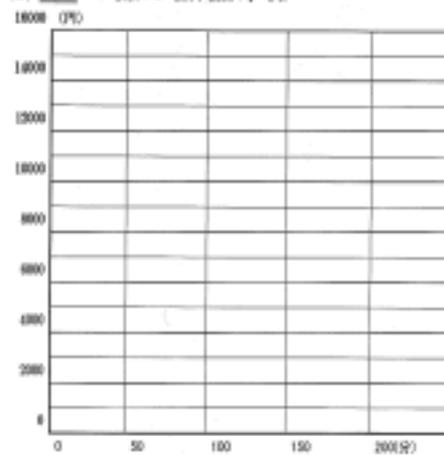
B社

x (分)	0	50	100	150	200
y (円)	6000				

C社

x (分)	0	50	100	150	200
y (円)	4000				

(2) グラフ 横軸：x (分)、縦軸：y (円)



## (8) 検証授業の考察

「職場体験活動」に関連した教科等以外においても、キャリア教育ではなくむ諸能力の視点を取り入れることにより、生徒が今の学習の必要性や大切さを理解することができると考え、授業実践を行った。

授業後の生徒の感想を次に紹介する。

### 生徒の感想

- ・ 日常の中にも、関数がどう使われているのか分かった。数学は大切だと思った。
- ・ 身近な所にも、関数の使い道があることが分かった。
- ・ いろいろ身近なものに1次関数を利用できることを知って、とても面白かった。
- ・ 物を選ぶときには、目先のことばかり考えず、長い目で見ること必要だと思った。
- ・ 一次関数を利用して面白いことができた。
- ・ みんなが同じ料金に設定せず、違う料金にすることで、見方や考えが変わり、新たな方法を取り入れることのできる良い学習方法だと思いました。楽しかったです。
- ・ 他の人の意見が分かり、自分の意見が正しいかどうかを知ることができて良いと思う。発表するのはあまり得意ではないけれど、少しずつ発表できるようにしていきたいので、このような授業を続けて欲しい。
- ・ 自分だけの意見ではそれしか知識がないが、人の意見を聞くことで自分にはなかった意見が出てきて面白かった。そして、次に話し合うときには、今と違うような考えで意見が出せると思う。人に意見を聞いてもらえることで、自分の考えの整理もできる。そして、人の意見によって、どのようなところが良い点でどのようなところが悪い点かも分かりました。
- ・ 一人ひとりが自分なりに説明できて、聞きやすかったし、メモが取りやすかった。数学的に考えた人やいろいろだったので面白かった。

上の感想は、生徒が書いた感想の一部である。生徒の感想を読んだとき、一人ひとりが多くのことを感じていたことに大変驚いた。今回の授業実践を通して数学を身近に感じ、今の学習の必要性や大切さを実感した生徒が多く、数学への関心・意欲が高まった。

日ごろの生徒の実態から、「自己表現能力」を育成したいと考えていたので、教材と学習形態を工夫した。教材に関しては、生徒の関心が高い携帯電話を用いたため、生徒たちは自分の問題として積極的に考え、自分の考えを小グループ内で発表し合っていた。小グループにしたのは、クラス全員の中で自分の考えを発表する方法に比べ、自分の考えを表現しやすく、小グループでの発表を通して自己表現することに自信が持てると思ったからである。そのねらいどおり、生徒は積極的に自分の考えを他者に発表することができ、他の人の考えを聞くことができていた。

## (9) 大船中学校の研究のまとめ

### 成果

職場体験活動を中心に据え、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れ、教科等と関連付けた指導計画を作成したことにより、職場体験活動が単独の活動ではなく、職場体験学習で経験したことがその後の教科学習においても効果を上げていることが分かった。それは、将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する態度を育成することにつながり、生徒の学びが深化したからである。

職場体験活動前には、「なぜ、働くのか？」という質問にクラスの約3分の2の生徒が「お金のため」や「生活のため」と答えていたが、職場体験活動やその後の学習を通して、生徒は「職業」や「働く」ことについて一人ひとりが真剣に考え、「お金のため」や「生活のため」だけではない、働く意義について考えるようになった。これは、教科等を横断して繰り返し「職業」や「働く」ことについて考えさせたことにより、得られた成果である。

また、職場体験活動後に家庭科の授業と関連させたことにより、職場体験活動を通して学んだことが家庭科の授業で生かされ、生徒は消費者（利用者）の視点だけではなく、提供者（事業者）や従事者の立場からも物事を考えることができ、違う立場の人のことも考えられるようになった。これら一連の学習を通し、キャリア教育が目指す「生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てる」ことができた。

その他、数学科での実践においては、数学を身近に感じ、今の学習の必要性や大切さを実感できた生徒が多く、数学への学習意欲が高まった。また、今回の研究を通して道徳・教科・特別活動・総合的な学習の時間の担当教員が情報交換を行う機会が増え、それぞれの学習内容を確認し合えた点も成果であった。

### 課題

今後の課題としては、次の3点が挙げられる。

一つ目は、教科の実践を増やすことである。今回は、家庭科と数学科で実践を行ったが、キャリア教育の視点を入れた授業が効果的であることが検証できたので、今後、他の教科で実践を積み重ねていく必要がある。

二つ目は、2年生の職場体験活動を中心に据えた取組であったので、1年生・3年生の具体的な実践までには至らなかった。そのため、今後は生徒のキャリア発達を考慮した1年生から3年生までの系統だった取組にすることが大変重要である。

三つ目は、キャリア教育の小・中・高校の連携に関しては、研究を深めることができなかった。今後は、近隣の学校と校種間を超えて情報交換する機会をつくり、徐々に小・中・高校の連携を図ることに取り組んでいきたい。

## 第3章 研究のまとめ

### 1 成果

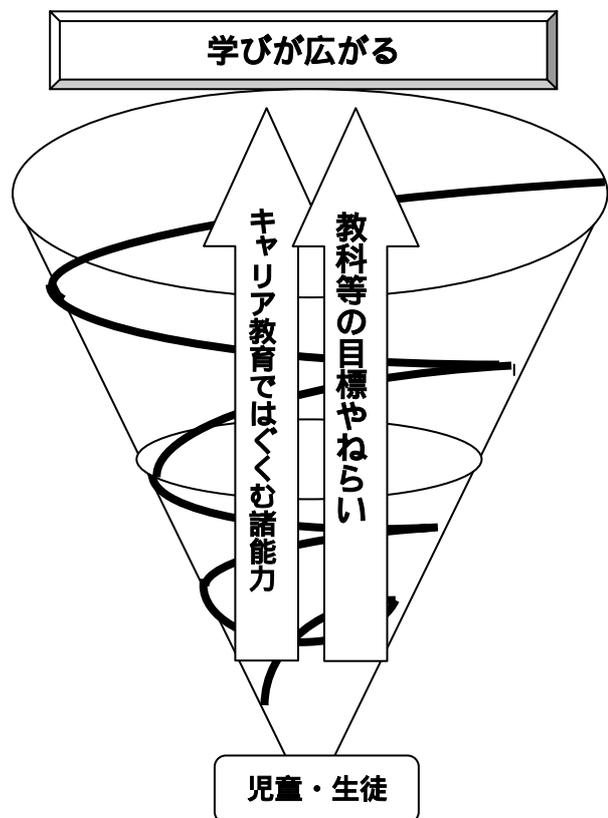
#### (ア) 授業改善を図ることができる

共同研究指定校2校（伊勢原市立伊勢原小学校・鎌倉市立大船中学校）とセンターが共同でキャリア教育の研究を行ったが、両校に共通していた点はこれまでにキャリア教育を特に研究として取り上げていなかった点である。

まずは、それぞれの学校の教職員とセンターの所員が、「キャリア教育とは何か?」、「どう推進したらよいのか?」について一緒に考え、次に児童・生徒の実態から判断し、キャリア教育を通して児童・生徒に身に付けさせたい諸能力を設定した。伊勢原小学校は4領域8能力（本冊子p.16参照）を、大船中学校は5領域10能力（本冊子p.42参照）を設定し、具体的な実践に入ることにした。

取組の特徴としては、通常行っている教科等の目標やねらいに、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れたことである。実践報告にあるように、キャリア教育ではぐくむ諸能力を取り入れたことにより、教科等の目標やねらいと対照・複合し、児童・生徒の学びが広がっていることが分かった。また、それだけではなく児童・生徒の学習意欲が高まり、今の学習の必要性や大切さを理解できた児童・生徒が多かった。

キャリア教育ではぐくむ諸能力を取り入れたことにより、授業改善を図ることができたのである。



## **(イ)「体験活動の充実」が教科等の学習を深化させる**

伊勢原小学校は、第4学年の国語科の単元「伝え合うということ」で授業実践を行った。この単元は調べる活動が中心になっているので、本やインターネットでの情報収集を中心として授業実践を行うこともできたが、児童が実際に取材を行う体験を大切にしたいと考え、指導計画を立てた。あるグループは私鉄のバリアフリーについて取材し、直接駅員さんから話を聞いたことによって、駅に筆談器があることが分かり、それを見せてもらうことができた。また、あるグループはパラリンピックの選手に同行して選手の通う大学まで盲導犬の代わりをしたことによって、盲導犬の仕事の大変さや盲導犬の必要性を実感することができた。このように実際に体験したことで、本やインターネットで情報収集をただけの学習とは違い、話を聞いた人々の言葉が児童の心に残り、その後の学習にも生かすことができた。

大船中学校は第2学年で実施する「職場体験活動」を中心に据えた実践を行ったが、この実践で工夫した点は、体験を通して学んだことをその後の授業で生かすことを考え、教科等と関連させた指導計画を立てたことである。家庭科の単元「消費生活に注目する」では、ある生徒はワークシートに「消費者として利用していたときには気付かない商品の並べ方等には、お店の工夫がある。それぞれのお店でいろいろ工夫していることが分かった」と記述しており、消費者（利用者）としての立場だけではなく、提供者（事業者）や従事者の立場から物事を見ることができるようになった。これは、体験を通じたからでないとして出てこない記述である。

「体験活動の充実」が日ごろの教科等の学習を深化させ、キャリア教育においても重要であることが、今回の授業実践から実証された。

## **(ウ)見通しを持った指導ができる**

伊勢原小学校の実践では、「キャリア教育ではぐくむ諸能力と第4学年国語科単元との関連表」を本冊子16・17ページに掲載し、大船中学校の実践では、「キャリア教育ではぐくむ諸能力と第2学年家庭科題材との関連表」を本冊子42・43ページに掲載した。この表は、縦に見ると、その単元におけるキャリア教育ではぐくむ諸能力の視点からとらえた期待することができる児童・生徒の姿を読み取ることができ、横に見ると児童・生徒のキャリア発達を追うことができる。

この表を作成したことにより、1年間を通じたキャリア発達を意識した取組が可能となった。さらに、キャリア教育ではぐくむ諸能力の視点からとらえた期待することができる児童・生徒の姿が明確になり、どの単元でどの能力を育成するのが分かるので、教員自身が先の見通しを持って指導に当たることができた。

## **(エ) 教員の意識を変える**

この研究を通して、研究チームの教員のキャリア教育に対する考え方が変わってきた。最初は、キャリア教育は進路指導と同じだと考えている教員もいたが、実践を重ねるごとにキャリア教育を進路指導より大きな枠で考えるようになり、特別活動や総合的な学習だけではなく、道徳や教科でも実践することが可能であることを理解し、教員の意識変革につながった。

## **2 課題**

### **(ア) キャリア教育を系統的に進める**

キャリア教育は、「就職の斡旋指導や進学指導等の受験指導のみを目的とするものではなく、児童・生徒の生涯にわたるキャリア形成の能力を身に付けさせるための教育」(本冊子3ページ参照)なので、一部の教科や一部の学年だけで行えるものではない。

伊勢原小学校は第4学年の実践を他の学年に広げることをねらい、大船中学校は第2学年の実践を第1・3学年の活動と結び付けることをねらいとし、研究を進めた。今後、今年度の実践を他のクラスや学年に広げ、継続した取組とすることが必要である。

小・中学校だけではなく、高校でもキャリア教育の重要性は増しており、神奈川県では平成20年度からすべての県立高校において各校ごとの指導計画に基づくキャリア教育が展開されている。今年度の研究では、そこまで実践することができなかったが、今後それぞれの学校で徐々に校種を超えた連携のあり方を考えていく必要があり、将来的には校種を超えた実践が望まれる。

### **(イ) 地域資源を開拓する**

伊勢原小学校は市立図書館や伊勢原駅等へ行き、児童が直接取材したことを基に学習を進めた。大船中学校では、職場体験活動場所として40か所以上もの事業所で体験活動を行うことができ、その時の経験が後の学習に生きたのである。両校の実践から分かるとおり、実際に体験したことがその後の学習を深化させ、児童・生徒の学習意欲を高めている。このように地域資源を活用することが、キャリア教育を推進する上で重要であり、地域との連携は欠かすことができない。今ある地域資源だけではなく、今後新しい地域資源を開拓することも、キャリア教育を推進する意味で大変重要である。

## 引用・参考文献

### 《引用文献》

- 神奈川県教育委員会 2007 「かながわ教育ビジョン」p.23、30、34、53
- 神奈川県立総合教育センター 2005 「キャリア教育推進ハンドブック」p. 9、10、13、22
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」pp.47-48
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2008 「キャリア教育体験活動事例集（第1分冊）- 家庭や地域との連携・協力 - 」p.10
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2008 「平成20年度全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会資料 [職場体験・インターンシップの実施状況等調査から]」  
p. 1
- 職業教育・進路指導研究会 1998 「職業教育・進路指導に関する基礎的研究（最終報告）」  
p.95
- 中央教育審議会 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」p.68-69、p.104
- 文部科学省 2004 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～」p. 7、14、25
- 文部科学省 2006 「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 - 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために - 」p. 3、19

### 《参考文献》

- 神奈川県立総合教育センター 2007 『高等学校における「教科でのキャリア教育」推進のためのガイドブック』
- 京都教育大学附属京都小学校・中学校 2006 『これならできる「キャリア教育」- 小・中学校の実践』明治図書
- 三村隆夫 2006 「キャリア教育と道德教育で学校を変える！」実業之日本社
- 山崎保寿 2006 「キャリア教育で働く意識を高める 小・中学校場面別導入例」学事出版
- 渡部昌平 2007 「誰にでもできる簡単キャリア教育はじめて入門」社団法人雇用問題研究会
- 渡部三枝 2008 「キャリア教育 - 自立していく子どもたち」東京書籍

平成 20 年度研究指定校共同研究事業（小学校・中学校）

『学びが広がるキャリア教育』の作成関係者

< 伊勢原市立伊勢原小学校 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	高橋 憲秋	教 諭	丸山 順司
教 頭	田山 光春	教 諭	工藤 範子
教 諭	紀平 栄二		

< 鎌倉市立大船中学校 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	秋山 定明	総括教諭	中澤 桂子
教 頭	西岡 正江	教 諭	鈴木 章子
総括教諭	堀 義行	教 諭	池邊 晴子
総括教諭	羽太 完侍	教 諭	西澤 美穂

< 神奈川県立総合教育センター >

所 属	職 名	氏 名
カリキュラム支援課	指 導 主 事	金子 憲勝
カリキュラム支援課	指 導 主 事	三堀 仁

平成 20 年度研究指定校共同研究事業（小学校・中学校）

「学びが広がるキャリア教育」

発 行 平成 21 年 3 月

発行者 安藤 正幸

発行所 神奈川県立総合教育センター

〒251-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1

電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

本冊子は、ホームページで閲覧できます。



再生紙を使用しています



**神奈川県立総合教育センター**

カリキュラムセンター（善行庁舎）  
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466)81-0188

FAX (0466)84-2040

教育相談センター（亀井野庁舎）  
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466)81-8521

FAX (0466)83-4500

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

